

平成25年度

加工・業務用野菜仕入価格等調査結果

～生産者等と直接取引を行う実需者等を対象とした仕入段階における実態調査～

本報告書は、一般社団法人食品需給研究センターに委託して実施した平成25年度加工・業務用野菜仕入価格等調査の結果を取りまとめたものです。

近年、野菜の消費量は、家計消費向けの生鮮野菜が減少する一方、業務用食材や食品加工業者の加工原料に供される加工・業務用野菜の需要が増加する傾向にあります。

女性の社会進出や単身世帯の増加、高齢化の進行、生活スタイルの多様化等を背景に食の外部化が進展するなかで、加工・業務用野菜の需要は引き続き伸びていくものと予想されます。

加工・業務用野菜の需要に占める国産の割合は、平成2年度には9割程度を占めていましたが、価格面等で優位性のある輸入野菜の使用が徐々に増加するなかで、平成22年度には7割程度まで低下しました。

輸入野菜は、その9割以上が加工・業務用向けに仕向けられているとみられており、輸入量は、残留農薬ポジティブリスト制度の施行、中国製冷凍ギョーザ事件の発生等により、平成17年をピークに減少したものの、平成21年以降、国内産の不作により再び増加傾向にあります。

このため、官邸の「農林水産業・地域の活力創造プラン（平成25年12月）」において、今後10年間で加工・業務用野菜の出荷量を5割増加することを目標に、低コスト・省力化生産、流通の改善を図り、産地の構造改革を推進するとされています。

当機構においては、これまで、加工・業務用野菜の生産基盤の強化に資することを目的として、加工・業務用向け国産野菜の取引の実態調査を進めてきたところですが、より具体的な取引条件等を把握するため、このたび、実需者や中間事業者が生産者・農業協同組合等と直接取引を行う場合の仕入価格及び仕入方法等について、実需者や中間事業者を対象とするアンケート調査結果を取りまとめました。

本報告書とともに、平成24年度に農業協同組合及び全国農業協同組合連合会を対象に行った、加工・業務用野菜の取引実態等に関するアンケート調査結果（詳細は、当機構ホームページを参照。）も併せて活用していただければ幸いです。

最後に、本調査の実施にあたってご協力いただいた事業者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成26年3月

独立行政法人農畜産業振興機構

目 次

I.	調査概要	1
II.	加工・業務用野菜の仕入概況	2
III.	加工・業務用野菜の業種別仕入実態	6
IV.	品目別の仕入価格等に係る分析	18
1.	キャベツ	19
2.	はくさい	21
3.	レタス	23
4.	たまねぎ	25
5.	きゅうり	27
6.	なす	29
7.	だいこん	31
8.	にんじん	33
V.	加工・業務用野菜に係る課題等	35

その他

報告書に使用した仕入価格等の集計方法について	37
------------------------	----

I. 調査概要

1 調査内容

本調査は、生産者・JA等(以下、「生産者等」という。)と実需者・中間事業者(以下、「実需者等」という。)の直接取引における加工・業務用野菜の仕入実態について、実需者等に対し、以下の調査項目により、アンケート形式による調査を実施したものである。

また、各品目の仕入価格については、生産者等と実需者等の間の直接の取引価格を比較・分析する目的から、カットや芯抜き等の一時加工を施していない、原体のままの生鮮ホール野菜の取引に限定して調査を行った。

- (1) 仕入品目
- (2) 品目別の仕入価格
- (3) 仕入価格設定の考え方
- (4) 仕入方法
- (5) 加工・業務用野菜を原料として製造した製品の販売先
- (6) 加工・業務用野菜の取引における課題等

2 アンケート調査票の送付対象者

実需者としてカット野菜製造業、惣菜製造業、漬物製造業、冷凍食品製造業等へ、中間事業者として青果卸売業、食品卸売業に対し、アンケート調査票を送付した。

3 アンケート調査票の回収状況

調査方法は、郵送によるアンケート方式により、平成25年10月～11月にかけて実施した。実需者等1,280事業者を対象にアンケート票を配布した結果、337事業者(回収率26.3%)から有効回答を得た。

4 アンケート結果集計の対象者

直近1年間(平成24年11月～平成25年10月)において、加工・業務用ホール野菜を仕入れた実績がある実需者等からのアンケート結果を基に、1の調査項目ごとにデータの集計・分析を行った。

このうち、1の(1)～(5)仕入方法及び仕入価格等の実態に係る調査項目(該当目次Ⅱ.～Ⅳ.)については、生産者等から加工・業務用野菜の仕入実績がある実需者等からの回答結果を基に取りまとめ及び分析を行った。

Ⅱ． 加工・業務用野菜の仕入概況

1 業種別にみた加工・業務用野菜の仕入状況について

直近 1 年以内の加工・業務用野菜の仕入実績の有無については、全体の 6 割の者が仕入実績有りと回答しており、業種別にみると、カット野菜製造業は全数が「仕入あり」で、うち「生産者等からの仕入あり」が 97.1%となっている。

また、惣菜製造業、給食事業、漬物製造業では、加工・業務用野菜の仕入実績がない業者もみられ、カットなど一次加工されたものを使用しているものとみられる。

なお、上記のうち、直近 1 年間に加工・業務用野菜を生産者等から仕入れている業者は 53.4%と全体の半数以上となっている。

図 1 直近 1 年間の加工・業務用野菜の仕入実績の有無

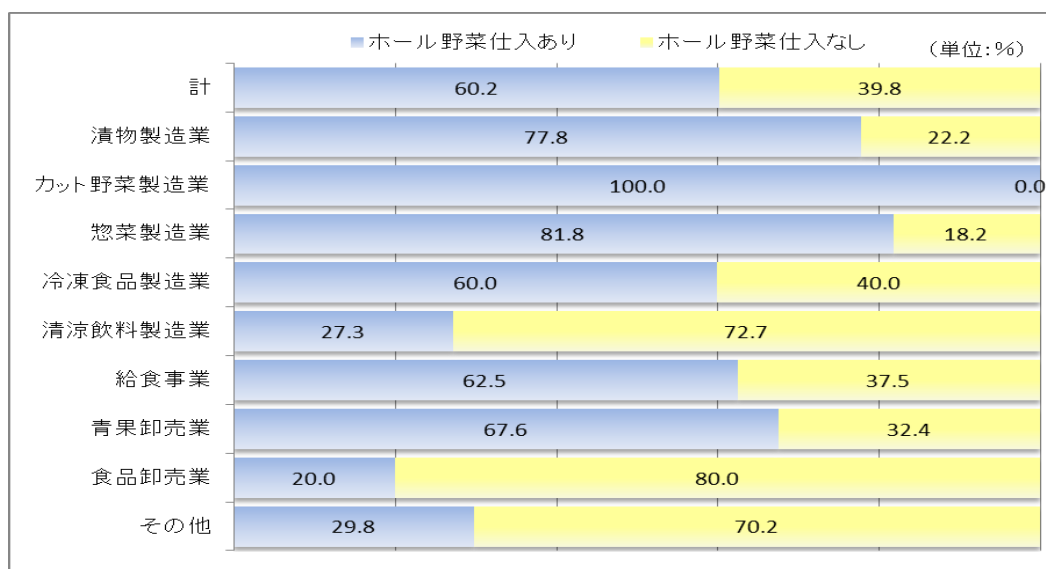


表 1 直近 1 年間の加工・業務用野菜の仕入実績の有無

	回答数		ホール野菜仕入あり				ホール野菜仕入なし	
			うち、生産者・JAから仕入あり					
	者	%	者	%	者	%	者	%
計	337	100.0	203	60.2	180	53.4	134	39.8
漬物製造業	90	100.0	70	77.8	69	76.7	20	22.2
カット野菜製造業	34	100.0	34	100.0	33	97.1	0	0.0
惣菜製造業	11	100.0	9	81.8	8	72.7	2	18.2
冷凍食品製造業	15	100.0	9	60.0	7	46.7	6	40.0
清涼飲料製造業	11	100.0	3	27.3	3	27.3	8	72.7
給食事業	8	100.0	5	62.5	2	25.0	3	37.5
青果卸売業	71	100.0	48	67.6	37	52.1	23	32.4
食品卸売業	40	100.0	8	20.0	7	17.5	32	80.0
その他	57	100.0	17	29.8	14	24.6	40	70.2

2 加工・業務用野菜の仕入状況

(1) 生産者等から仕入状況

直近1年間において、生産者等から加工・業務用野菜の仕入実績があると回答した180者の実需者等の業種内訳は図2の通りとなっている。

「漬物製造業」が最も多く、次いで「青果卸売業」、「カット野菜製造業」等となっており、この3業種で全体の8割弱を占めている。

図2 直近1年間に生産者等から仕入実績がある者の業種

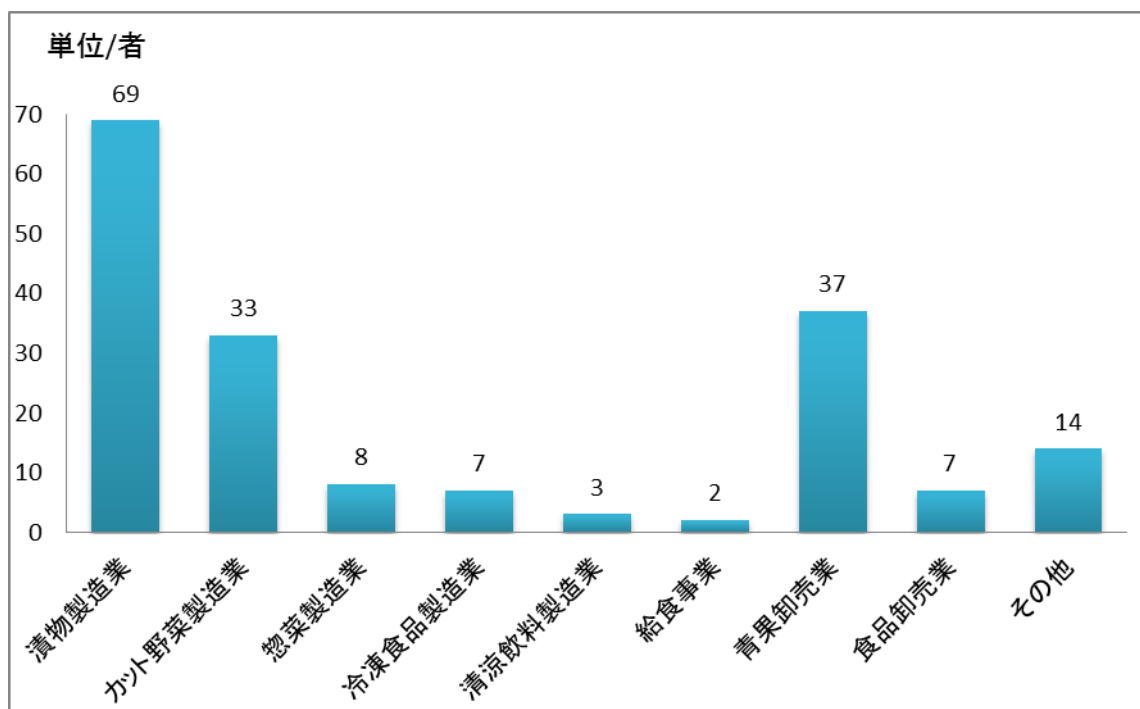


表2 直近1年間に生産者等から仕入実績がある者の業種

	アンケート回答全体数			
			うち、生産者等からホール野菜の仕入あり	
	者	%	者	%
計	337	100.0	180	100.0
漬物製造業	90	26.7	69	38.3
カット野菜製造業	34	10.1	33	18.3
惣菜製造業	11	3.3	8	4.4
冷凍食品製造業	15	4.5	7	3.9
清涼飲料製造業	11	3.3	3	1.7
給食事業	8	2.4	2	1.1
青果卸売業	71	21.1	37	20.6
食品卸売業	40	11.9	7	3.9
その他	57	16.9	14	7.8

(2) 生産者等から仕入れている加工・業務用野菜の取引形態について

直近 1 年間に生産者等から加工・業務用野菜の仕入実績があると回答した者の取引形態については、「直接取引」が 89.4%、「卸売市場における相対取引」が 10.6%となっている。

業種別にみても、いずれの業種も「直接取引」が 8 割以上となっている。

図 3 加工・業務用野菜の仕入方法

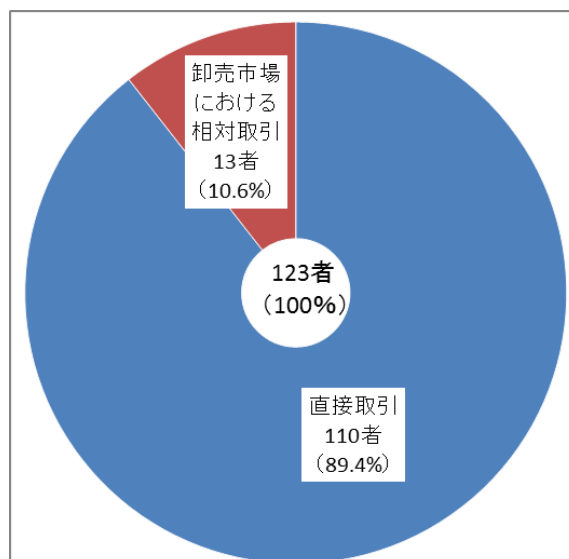


表 3 加工・業務用野菜の仕入方法

	回答数	計	直接取引	卸売市場における相対取引
	者	%	%	%
計	123	100.0	89.4	10.6
漬物製造業	48	100.0	87.5	12.5
カット野菜製造業	25	100.0	96.0	4.0
惣菜製造業	6	100.0	100.0	0.0
冷凍食品製造業	6	100.0	83.3	16.7
青果卸売業	17	100.0	88.2	11.8
食品卸売業	6	100.0	83.3	16.7
その他	15	100.0	86.7	13.3

※無回答の者を除く。

(3) 加工・業務用野菜の品目別仕入実績

直近１年間に生産者・ＪＡ等から加工・業務用野菜の仕入実績があった品目をみると、業種により品目の多寡は異なるが、全体としてはキャベツ、だいこん、たまねぎ、きゅうり等の取引が多い。

表４ 加工・業務用野菜の品目別仕入実績

(複数回答)

	回答数	キャベツ	だいこん	たまねぎ	きゅうり	はくさい	レタス	にんじん	なす	ばれいしょ	トマト	かんしょ
実数	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者
計	180	61	58	43	43	41	32	23	21	20	12	9
漬物製造業	69	1	35	1	31	31	0	1	18	0	1	0
カット野菜製造業	33	25	10	17	0	2	14	8	0	3	2	2
惣菜製造業	8	4	2	2	2	0	3	1	1	2	0	1
冷凍食品製造業	7	2	0	5	0	1	0	2	0	1	0	1
青果卸売業	37	23	7	10	8	7	11	7	1	3	6	1
食品卸売業	7	1	1	3	1	0	1	1	0	3	1	1
その他	19	5	3	5	1	0	3	3	1	8	2	3

Ⅲ. 加工・業務用野菜の業種別仕入実態

Ⅲ. では、加工・業務用野菜の仕入実態について、主に業種別の調査結果を取りまとめた。
なお、調査項目については以下のとおりである。

- 1 仕入に係る運賃の負担について
- 2 運賃の支払方法について
- 3 規格・サイズの有無
- 4 数量・面積等の契約方法
- 5 仕入価格設定の方法
- 6 仕入価格設定の期間
- 7 仕入価格設定の考え方
- 8 製造した製品の販売先
- 9 加工・業務用野菜のうち、国産の仕入割合

1 運賃の負担について

加工・業務用野菜の仕入時における運賃の負担については、「生産者負担」が72.7%、「自社負担」が27.3%となっており、生産者サイドが負担するケースが多い。

業種別に「生産者負担」の割合をみると、特に惣菜製造業が高く、次いで冷凍食品製造業、カット野菜製造業の順となっている。一方、「自社負担」の割合が他の業種に比べてやや高いのは、食品卸売業、青果卸売業、漬物製造業となっている。

図4 加工・業務用野菜仕入時の運賃の負担

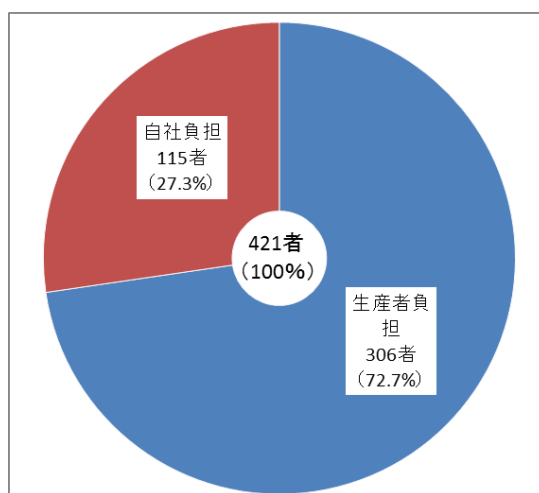


表5 加工・業務用野菜仕入時の運賃の負担

	回答数	計	生産者負担	自社負担
	者	%	%	%
計	421	100.0	72.7	27.3
漬物製造業	142	100.0	70.4	29.6
カット野菜製造業	94	100.0	75.5	24.5
冷凍食品製造業	17	100.0	76.5	23.5
惣菜製造業	16	100.0	93.8	6.3
青果卸売業	99	100.0	68.7	31.3
食品卸売業	15	100.0	66.7	33.3
その他	38	100.0	76.3	23.7

※回答数は品目別延べ回答数（以下同様）。

2 運賃の支払方法について（自社で負担する場合）

運賃を自社負担する場合、その支払方法については、「別途支払う」が56.9%、「仕入価格に含む」が39.4%となっている。

業種別では、漬物製造業、カット野菜製造業及び青果卸売業では「別途支払う」が「仕入価格に含む」より多くなっており、一方、冷凍食品製造業、惣菜製造業、食品卸売業では「仕入価格に含む」が「別途支払う」よりも多くなっている。

図5 加工・業務用野菜の運賃の支払方法（自社負担）

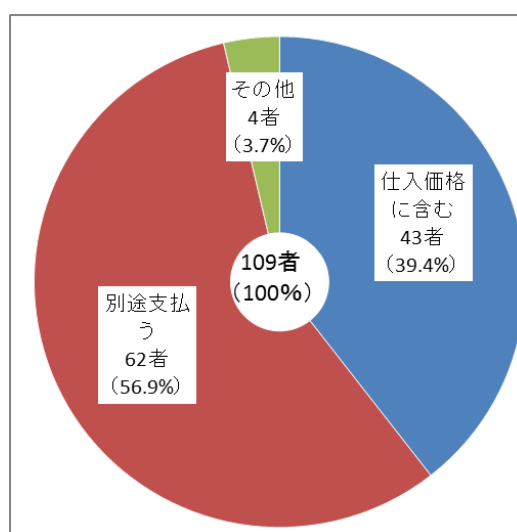


表6 加工・業務用野菜の運賃の支払方法

	自社負担の場合				
	回答数	計	仕入価格に含む	別途支払う	その他
	者	%	%	%	%
計	109	100.0	39.4	56.9	3.7
漬物製造業	40	100.0	27.5	62.5	10.0
カット野菜製造業	23	100.0	30.4	69.6	0.0
冷凍食品製造業	4	100.0	75.0	25.0	0.0
惣菜製造業	1	100.0	100.0	0.0	0.0
青果卸売業	27	100.0	37.0	63.0	0.0
食品卸売業	5	100.0	60.0	40.0	0.0
その他	9	100.0	88.9	11.1	0.0

3 規格・サイズ

加工・業務用野菜の規格・サイズの基準の有無については、「規格・サイズの基準がある」が91.2%を占めている。

業種別でもすべての業種において8割以上が「規格・サイズの基準がある」と回答しており、なかでも惣菜製造業及び食品卸売業ではすべての事業者が「規格・サイズの基準がある」としている。

品目別の価格水準についてみると、「規格・サイズの基準がある」品目の価格が「規格・サイズの基準がない」に比べてやや高い水準となっているが、今回の調査ではキャベツ、レタス、はくさいの葉茎菜類と、なすについて、規格・サイズの基準がないケースにおいて価格が高めとなった。

図 6-A 加工・業務用野菜仕入時の規格・サイズ基準の有無

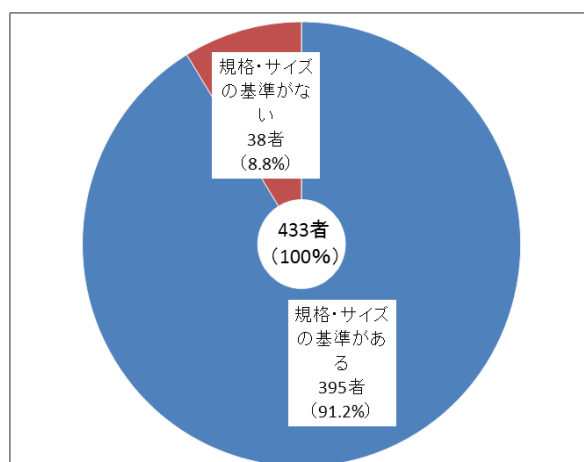
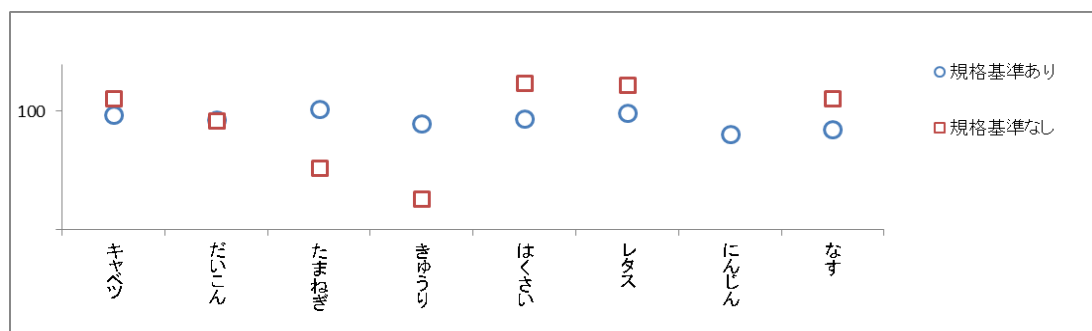


表 7 加工・業務用野菜の仕入時の規格・サイズ基準の有無

	回答数	計	規格・サイズの基準がある	規格・サイズの基準がない
	者	%	%	%
計	433	100.0	91.2	8.8
漬物製造業	150	100.0	86.7	13.3
カット野菜製造業	93	100.0	95.7	4.3
惣菜製造業	19	100.0	100.0	0.0
冷凍食品製造業	17	100.0	88.2	11.8
青果卸売業	99	100.0	93.9	6.1
食品卸売業	15	100.0	100.0	0.0
その他	40	100.0	85.0	15.0

図 6-B 規格基準の有無別にみた野菜の価格水準



注：価格水準は、各品目について項目ごとの仕入価格を年平均仕入価格で除して指数化したもの。

（指数 100=各品目の年平均仕入価格）※以下同様。

4 数量・面積の契約方法

加工・業務用野菜の仕入れに関し、数量・面積契約の有無については、「数量」での契約が 76.8% を占めており、「数量＋面積」の契約が 9.4%、「面積」の契約が 5.4%と少ない。

業種別でもすべての業種で「数量」での契約が最も多くなっている。漬物製造業では「面積」での契約が 12.3%、冷凍食品製造業及び青果卸売業では「数量＋面積」での契約がそれぞれ 17.6%、16.9%となっており、他の業種よりも多くなっている。

図 7-A 加工・業務用野菜仕入における数量・面積契約の有無

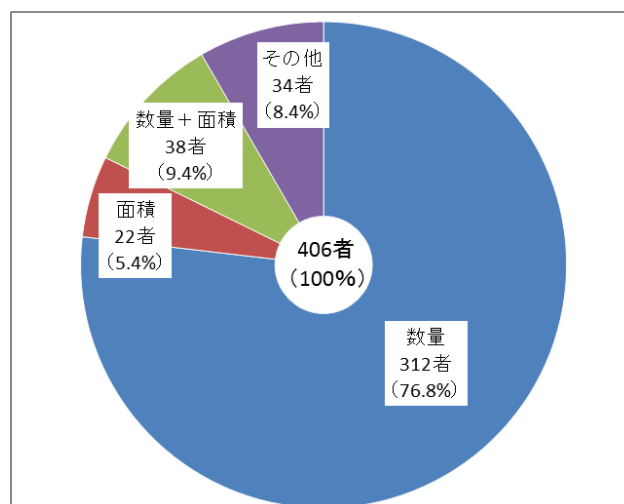
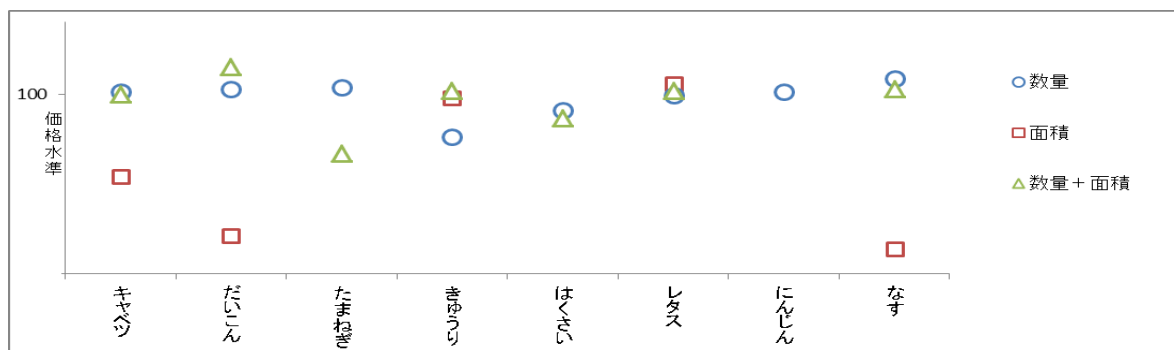


表 8 加工・業務用野菜の仕入における数量・面積契約の有無

	回答数	計	数量	面積	数量＋面積	その他
	者	%	%	%	%	%
計	406	100.0	76.8	5.4	9.4	8.4
漬物製造業	138	100.0	72.5	12.3	9.4	5.8
カット野菜製造業	89	100.0	79.8	3.4	6.7	10.1
惣菜製造業	19	100.0	89.5	5.3	0.0	5.3
冷凍食品製造業	17	100.0	82.4	0.0	17.6	0.0
青果卸売業	89	100.0	70.8	0.0	16.9	12.4
食品卸売業	15	100.0	66.7	6.7	6.7	20.0
その他	39	100.0	94.9	0.0	0.0	5.1

図 7-B 数量・面積契約別にみた加工・業務用野菜の価格水準



5 価格設定の方法

加工・業務用野菜の仕入価格の設定方法については、月、シーズン、年間等の「固定」が52.3%と半数以上となっている。次いで「市場連動」が24.7%、「固定＋市場連動」が22.6%となっている。

業種別でみると、「市場連動」が最も多かった食品卸売業を除くほぼすべての業種において、「固定」が最も多くなっている。品目別の価格水準についてみると、多くの品目においては「市場連動」が高い結果となっている。

図 8-A 加工・業務用野菜仕入における価格設定の方法

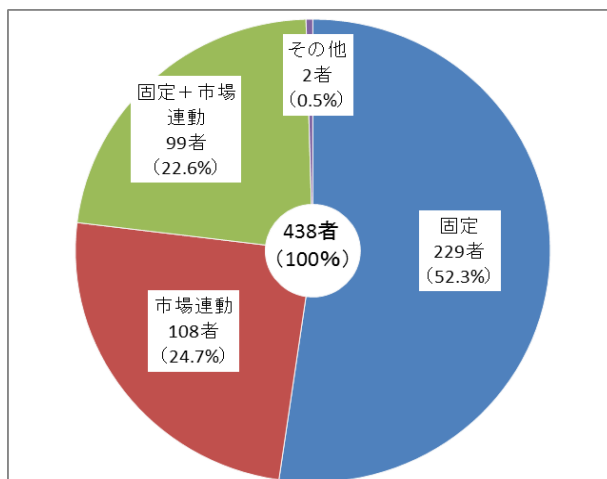
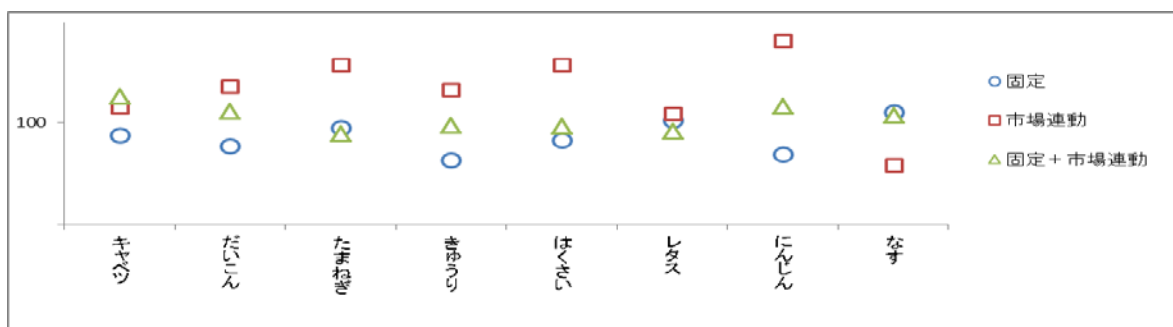


表 9 加工・業務用野菜の仕入における価格設定の方法

	回答数	計	固定	市場連動	固定＋市場連動	その他
	者	%	%	%	%	%
計	438	100.0	52.3	24.7	22.6	0.5
漬物製造業	153	100.0	54.9	23.5	20.9	0.7
カット野菜製造業	94	100.0	64.9	11.7	23.4	0.0
惣菜製造業	19	100.0	57.9	5.3	36.8	0.0
冷凍食品製造業	17	100.0	41.2	23.5	35.3	0.0
青果卸売業	99	100.0	39.4	35.4	25.3	0.0
食品卸売業	15	100.0	26.7	40.0	33.3	0.0
その他	41	100.0	56.1	36.6	4.9	2.4

図 8-B 価格設定方法別にみた加工・業務用野菜の価格水準



6 価格設定の期間

加工・業務用野菜の仕入価格の設定期間については、「シーズン」が50.6%で最も多く、半数を占めている。次いで「日単位」が18.0%、「月単位」が16.2%、「年間」が13.4%となっており、業種別でも、「シーズン」単位で設定している者が多い。

品目別の価格水準についてみると、月、日単位で価格が変動する仕入形態（市場連動の者が多い）のものが、シーズンや年間単位のものに比べて高い水準であることが多い。

図 9-A 加工・業務用野菜の仕入における価格設定の期間

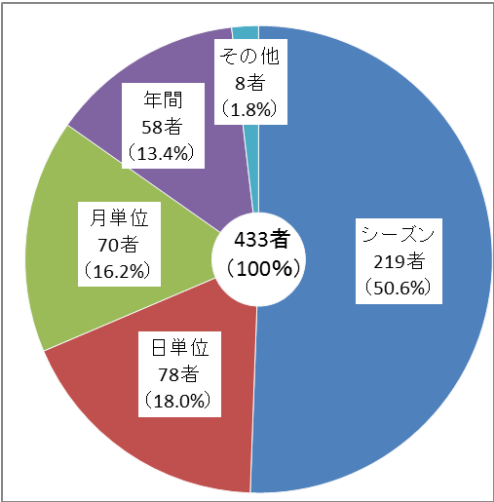
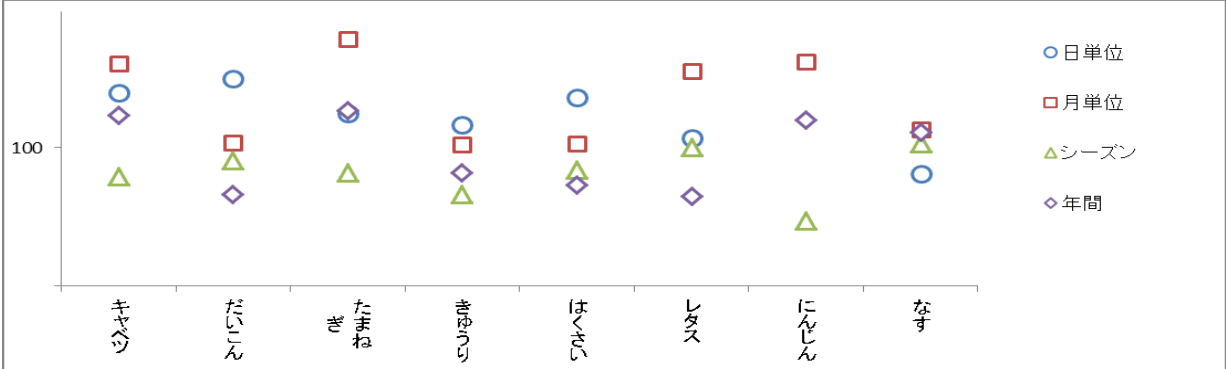


表 10 加工・業務用野菜の仕入における価格設定の期間

	回答数	計	シーズン	日単位	月単位	年間	その他
	者	%	%	%	%	%	%
計	433	100.0	50.6	18.0	16.2	13.4	1.8
漬物製造業	148	100.0	48.6	19.6	16.9	14.9	0.0
カット野菜製造業	94	100.0	66.0	3.2	14.9	16.0	0.0
惣菜製造業	19	100.0	47.4	5.3	5.3	42.1	0.0
冷凍食品製造業	17	100.0	35.3	17.6	35.3	11.8	0.0
青果卸売業	99	100.0	45.5	34.3	12.1	6.1	2.0
食品卸売業	14	100.0	28.6	21.4	42.9	7.1	0.0
その他	42	100.0	50.0	11.9	14.3	9.5	14.3

図 9-B 価格設定期間別にみた加工・業務用野菜の価格水準



7 価格設定の考え方

加工・業務用野菜の仕入価格設定の考え方については、「市場卸売価格を参考に決めている」が42.1%で最も多く、次いで「生産費を参考に決めている」が34.5%、「製品価格から逆算し、決めている」が15.4%となっている。

業種別でみると、カット野菜製造業については他の業種と異なり、生産費を参考に価格設定を行うという回答が最も多かった。

品目別の価格水準を比較すると、市場卸売価格を参考とする者の価格が概ね高めとなっているものが多い。

図 10-A 加工・業務用野菜仕入における価格設定の考え方

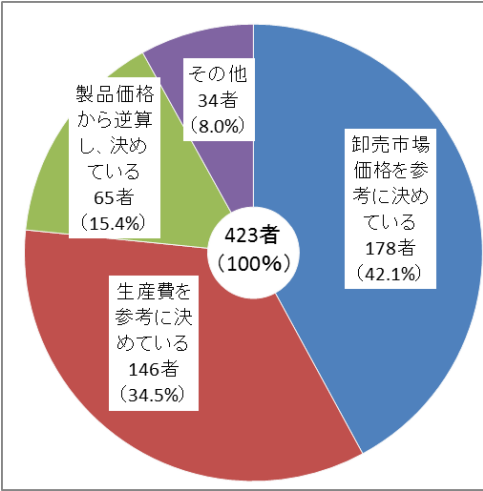
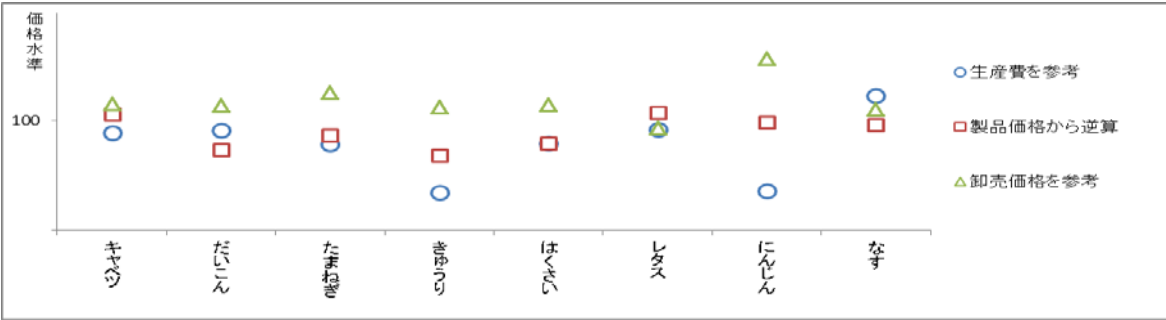


表 11 加工・業務用野菜の仕入における価格設定の考え方

	回答数	計	卸売市場価格を参考に決めている	生産費を参考に決めている	製品価格から逆算し、決めている	その他
	者	%	%	%	%	%
計	423	100.0	42.1	34.5	15.4	8.0
漬物製造業	147	100.0	43.5	33.3	17.7	5.4
カット野菜製造業	91	100.0	24.2	53.8	16.5	5.5
惣菜製造業	19	100.0	63.2	15.8	10.5	10.5
冷凍食品製造業	17	100.0	35.3	23.5	23.5	17.6
青果卸売業	99	100.0	52.5	22.2	16.2	9.1
食品卸売業	14	100.0	50.0	21.4	7.1	21.4
その他	36	100.0	41.7	44.4	2.8	11.1

図 10-B 価格設定の考え方別にみた加工・業務用野菜の価格水準



8-1 製品の販売先

加工・業務用野菜を原料として製造した製品の販売先については、「スーパーマーケット」が42.0%で最も多く、次いで「外食事業者」が13.9%、「その他の小売業者」が7.6%となっており、このように、製造した製品が量販店や外食業者へ販売されるケースがほとんどであるが、一部(13%程度)については、漬物や惣菜メーカーへ二次加工用として販売されている。

図 11 加工・業務用野菜を原料として製造した製品の販売先

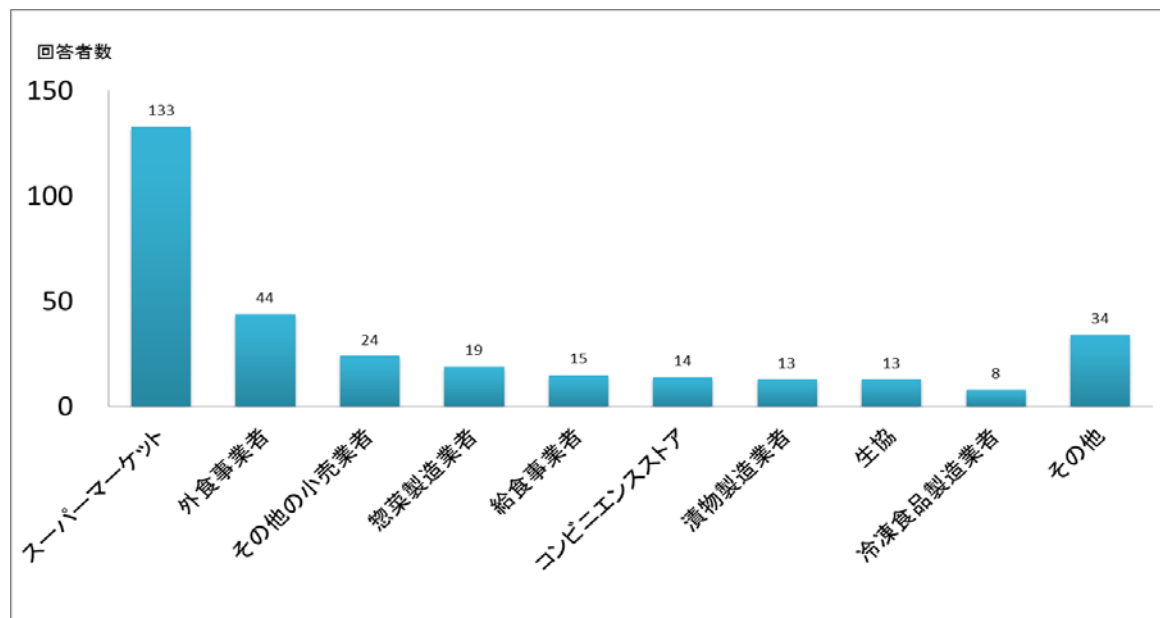


表 12 加工・業務用野菜を原料として製造した製品の販売先

	回答数	計	スーパーマーケット	外食事業者	その他の小売業者	惣菜製造業者	給食事業者	コンビニエンスストア	漬物製造業者	生協	冷凍食品製造業者	清涼飲料製造業者	その他
	者	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
計	317	100.0	42.0	13.9	7.6	6.0	4.7	4.4	4.1	4.1	2.5	0.3	10.4
漬物製造業	153	100.0	54.2	7.8	11.8	2.6	1.3	2.6	5.9	4.6	0.0	0.0	9.2
カット野菜製造業	94	100.0	36.2	29.8	2.1	10.6	8.5	5.3	1.1	0.0	6.4	0.0	0.0
惣菜製造業	19	100.0	36.8	0.0	0.0	10.5	0.0	21.1	15.8	0.0	0.0	0.0	15.8
冷凍食品製造業	17	100.0	11.8	17.6	0.0	0.0	11.8	5.9	0.0	35.3	11.8	0.0	5.9
その他	34	100.0	20.6	2.9	11.8	8.8	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	44.1

8-2 品目別にみた製品の販売先

品目別でみると、たまねぎ、にんじん、きゅうり等で、一部の製品が惣菜や冷凍食品製造業者向けとして、二次加工用に販売されていることがわかる。カット業者等から、惣菜や冷凍食品の具の一部として製品が販売されるケース等があるものとみられる。

品目別にみた加工・業務用野菜を原料として製造した製品の販売先

	回答数	スーパーマーケット	外食事業者	その他の小売業者	惣菜製造業者	給食事業者	コンビニエンスストア	漬物製造業者	冷凍食品製造業者	生協	その他
	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者
計	242	104	38	17	15	14	12	8	7	4	23
だいこん	49	26	5	5	1	4	3	2			3
キャベツ	35	12	10	2	2	3	4		1	1	
はくさい	32	20	3	3	1		1	2			2
きゅうり	29	16	1	3	1		1	3		2	2
たまねぎ	27	8	6	2	4	1			3	1	2
レタス	18	8	5		1	1	1				2
なす	18	10	1	2				1			4
にんじん	14	1	3		3	2	1		2		2
ぱれいしょ	10	2	2		1	1	1				3
かんしょ	6	1			1	1			1		2
トマト	4		2			1					1

9-1 国産加工・業務用野菜の仕入割合

加工・業務用野菜における国産品の仕入割合については、「9割台以上」が86.4%で最も多くなっており、なかでも漬物製造業では「9割台以上」が94.8%と最も高い割合となっている。

一方、冷凍食品製造業でも「9割台以上」が最も多いものの、「1, 2割台以下」及び「3, 4割台」の割合が他の業種よりも高くなっている。

図 12 加工・業務用野菜の国産品の仕入割合

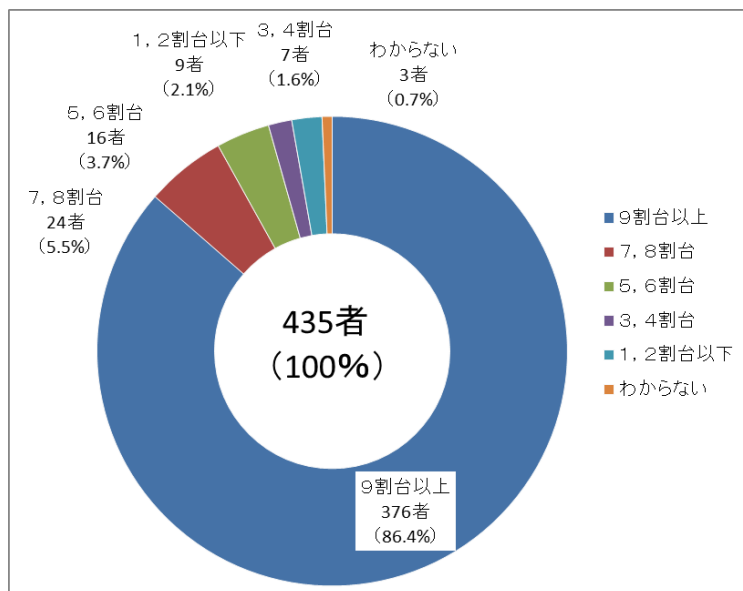


表 13 加工・業務用野菜の国産品の仕入割合

	回答数	計	9割台以上	7, 8割台	5, 6割台	3, 4割台	1, 2割台以下	わからない
	者	%	%	%	%	%	%	%
計	435	100.0	86.4	5.5	3.7	1.6	2.1	0.7
漬物製造業	155	100.0	94.8	1.3	0.6	0.6	1.9	0.6
カット野菜製造業	94	100.0	73.4	11.7	9.6	3.2	2.1	0.0
惣菜製造業	19	100.0	78.9	15.8	5.3	0.0	0.0	0.0
冷凍食品製造業	17	100.0	76.5	0.0	5.9	5.9	11.8	0.0
青果卸売業	96	100.0	86.5	5.2	3.1	1.0	2.1	2.1
食品卸売業	15	100.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	39	100.0	94.9	0.0	2.6	2.6	0.0	0.0

9-2 品目別にみた加工・業務用野菜の国産品の仕入割合

品目別でみると、だいこん及びはくさいは「9割台以上」が90%台、キャベツ、きゅうり、トマト及びなすが80%台となっている。

一方、輸入の多いたまねぎ及びにんじんについては、ともに「9割台以上」が60%台にとどまっている。

図 13 品目別にみた加工・業務用野菜の国産品の仕入割合

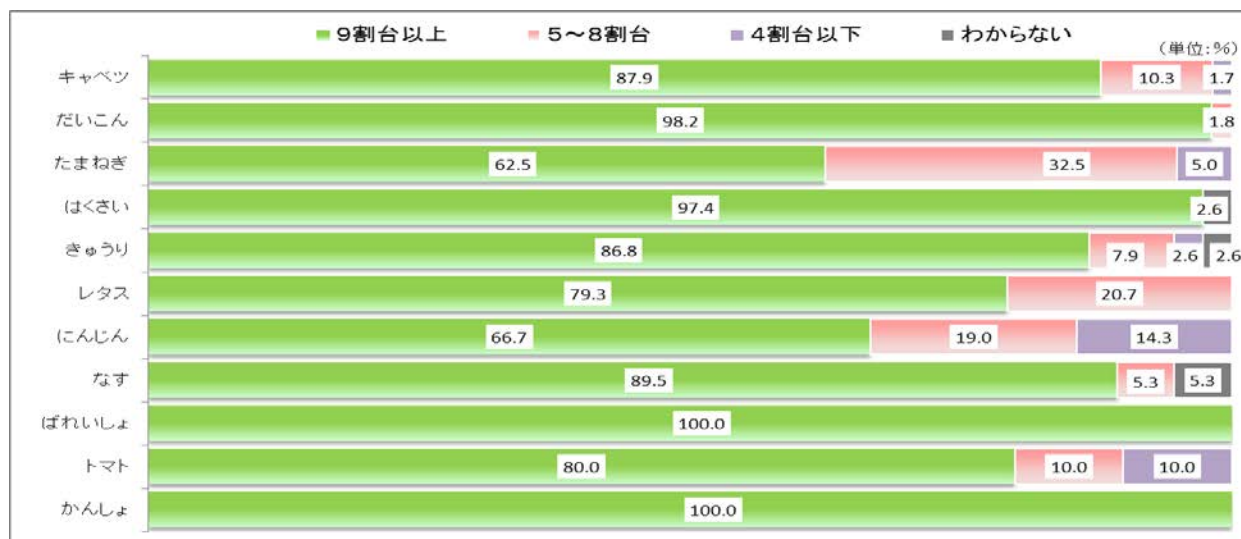


表 14 品目別にみた加工・業務用野菜の国産品の仕入割合

	回答数	9割台以上	7, 8割台	5, 6割台	3, 4割台	1, 2割台以下	わからない
	者	者	者	者	者	者	者
計	333	287	24	11	2	6	3
キャベツ	58	51	4	2	1	0	0
だいこん	56	55	1	0	0	0	0
たまねぎ	40	25	8	5	0	2	0
はくさい	38	37	0	0	0	0	1
きゅうり	38	33	2	1	0	1	1
レタス	29	23	6	0	0	0	0
にんじん	21	14	2	2	1	2	0
なす	19	17	1	0	0	0	1
ばれいしょ	17	17	0	0	0	0	0
トマト	10	8	0	1	0	1	0
かんしょ	7	7	0	0	0	0	0

IV. 品目別の仕入価格等に係る分析

IV. では、品目別の仕入価格について、東京都中央卸売市場における卸売価格等との比較や、仕入価格を決定する要素（価格設定の考え方や設定期間等）別に整理・分析を行った。

分析対象品目については、今回のアンケート調査において一定の回答数を得たキャベツ、はくさい、レタス、たまねぎ、きゅうり、なす、だいこん、にんじんの8品目を取り上げた。その中には、限られた数のサンプルを基に分析を行っているものもあるので、本項目の内容の活用等については、その制約を踏まえた留意が必要である。

1 キャベツ

キャベツの仕入価格の推移をみると、平成 24 年 11 月～25 年 3 月は 77 円/kg、25 年 4～6 月及び 7～10 月は 75 円/kg、年平均で 76 円/kg となっており、今回の調査品目のなかでも、年間を通じてシーズン毎の価格変動が最も少ない。

図 14 をみると、キャベツは露地栽培のため生育が天候に左右されやすく、特にカット需要の強い春先の寒玉系の不足時期等に高騰する傾向があることから、調査期間内の市場卸売価格の振れ幅が大きくなっているが、加工・業務用の仕入価格は一貫して横ばいで推移している。

また、年平均仕入価格は、平年の市場卸売価格と比較して 12%程度低く設定されている(表 15-A 参照)が、市場卸売価格が低迷した時期も一定価格は維持されている。

サラダ等生食向けから、鍋、炒めものの具材として等、多様な用途を持つキャベツは、表 15-B の⑤によると、外食・スーパー・コンビニ・給食等、製造した製品の販売先の業種が多岐にわたっており、川下の需要が安定している(キャベツ全体の需要に対し、加工・業務用需要は 50%) ことに加え、外国産との競合が少ない※ことも、一定水準の仕入価格が維持される一因と推察される。

表 15-B について

- ① 仕入業種は、4 割ほどをカット野菜製造業が占める。
- ② 価格設定の考え方に別け仕入価格を比較すると、最も低く設定されているものは「生産費を参考」、次いで「製品価格から逆算」、「市場卸売価格を参考」となっているが、その価格差は年平均で 10 円/kg 未満となっている。
- ③ 価格設定方法別に仕入価格を比較すると、シーズン、年間等の「価格固定型」の価格に比べて、「市場連動型」及び「価格固定型+市場連動型」は、やや高めとなっている。
- ④ 価格設定期間別に仕入価格を比較すると、最も該当数の多い「シーズン」契約の者の年間仕入価格が低めとなっている一方、③で市場連動型を選択している者が多い「日単位」及び「月単位」では、年間仕入価格が比較的高い。

※：農林水産政策研究所 小林茂典「加工・業務用野菜の需要動向」によると、平成 22 年時点でキャベツの加工・業務用需要に占める輸入割合は約 4%。以下の図は同資料を基に機構作成。

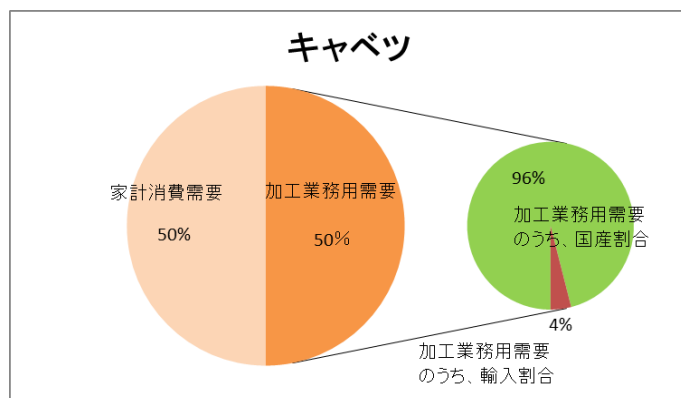


図 14 キャベツの仕入価格等の推移（平成 24 年 11 月～25 年 10 月）

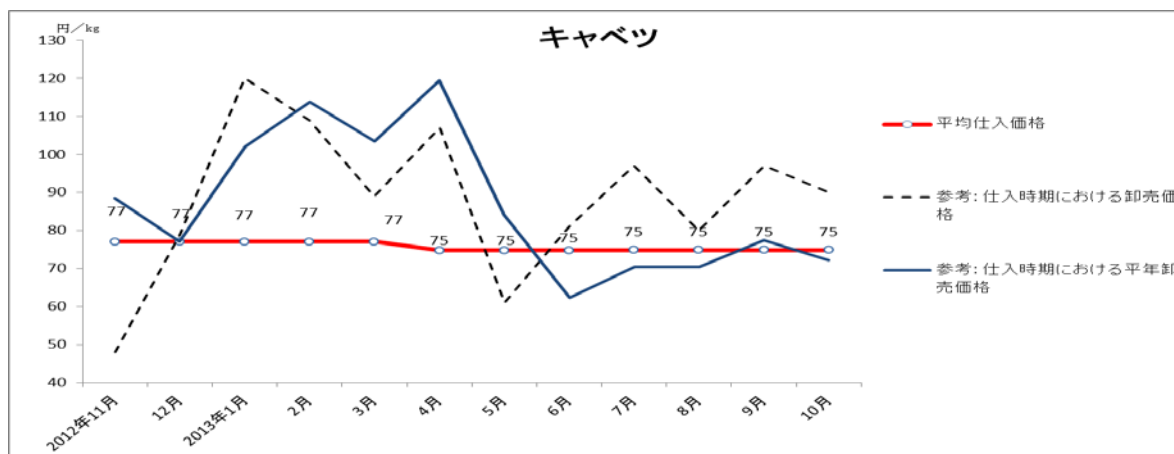


表 15-A キャベツの仕入価格概要

キャベツ		
A	調査期間における平均仕入価格	76
B	調査期間における平均市場卸売価格	88
C	平年の市場卸売価格	86
D	AのCに対する乖離度合 $(A/C-1) \times 100(\%)$	-12%
E	参考: 輸入単価	36
F	参考: 生産費	40

※B、C、E、Fについては巻末の集計方法等を参照のこと。

表 15-B キャベツの項目別仕入価格（n=48）

				(単位: %、円/kg)		
		構成比	時期別の国内仕入価格			年平均
			H24.11～ H25.3	H25.4～6	H25.7～10	(H24.11～ H25.10)
計		100.0	77	75	75	76
①業種	カット野菜製造業	47.9	76	74	73	74
	青果卸売業	37.5	77	71	72	73
	その他	14.6	83	86	87	85
②価格設定の考え方	生産費を参考	45.8	72	73	72	72
	製品価格から逆算	12.5	84	78	70	77
	卸売価格を参考	33.3	78	79	84	80
	その他	6.3	95	62	70	76
③価格設定方法	価格固定型	62.5	74	71	69	71
	市場連動型	16.7	83	77	84	81
	価格固定型＋市場連動型	20.8	83	85	88	85
	その他					
④価格設定期間	日単位	16.7	88	88	96	91
	月単位	8.3	117	100	79	98
	シーズン	62.5	69	67	67	68
	年間	12.5	85	83	85	84
	その他					
⑤販売先業種	外食事業者	35.4	73	71	73	72
	給食事業者	2.1	90		75	83
	惣菜製造業者	8.3	78	61	64	67
	コンビニエンスストア	10.4	63	65	61	63
	スーパーマーケット	25.0	83	83	78	81
	漬物製造業者					

注: “n” は回答総数を指し、構成比は n 数に対する比率を%表示（割合）で記している。

項目ごとに無回答を除外しているため、合計が 100%にならない場合がある。以下品目についても同様。

2 はくさい

はくさいの仕入価格の推移をみると、平成 24 年 11 月～25 年 3 月は 60 円/kg、25 年 4～6 月は 70 円/kg、7～10 月は 91 円/kg、年平均で 73 円/kg となっており、図 15 をみると、シーズンによる価格差が比較的大きく、特に 7～10 月の仕入価格が高い。

これは、はくさい漬け家計消費量が、一昨夏の食中毒事件以降減少傾向で推移していたものの、平成 25 年 7 月以降は事件発生前の水準へ回復したことから、原料に対する需要が高まり、不足分の一部が市場調達された※¹ こともあり、仕入価格と市場卸売価格の連動性が高まったことも影響しているとみられる。

年平均仕入価格は、平年の市場卸売価格より 11%程度低く設定されている(表 16-A 参照)が、25 年 4～6 月に市場卸売価格が平均 49 円と低迷していた時期も一定価格は維持されている。

用途は漬物中心で、仕入業種は大半が漬物製造業者と限定的であるが、表 16-B の⑤によると、製造した製品の販売先業種は外食・スーパー・コンビニ等に分散されており、川下の需要が安定的である(はくさい全体の需要に対し、加工・業務用需要は 52%) ことに加え、外国産との競合は極めて少ない※² ことが、一定水準の仕入価格が維持される一因と推察される。

表 16-B について

- ① 仕入業種は、7 割ほどを漬物製造業者が占める。
- ② 価格設定の考え方別に仕入価格を比較すると、「市場卸売価格を参考」にした者の仕入価格は、秋口の市場卸売価格の上昇と連動して推移したことが影響し、「生産費を参考」及び「製品価格から逆算」を選択した者の年平均仕入価格と比較して 10 円程度高い水準となった。
- ③ 価格設定方法別に仕入価格を比較すると、シーズン、年間等の「価格固定型」の価格に比べて、市場連動要素を含む設定方法を選択している者の価格は、上述の理由により比較的高い水準で推移している。
- ④ 価格設定期間別に仕入価格を比較すると、最も該当数が多く、より安定的な収入の目安が立ち易い「シーズン」契約の者の年間仕入価格が低めとなっている一方、「日単位」及び「月単位」では、年間仕入価格が比較的高い。これは、短いスパン(特に日単位)で契約更新を行う市場連動型の者の価格が、その時の需給実態を反映して、相対的に高い価格設定となったことが影響しているとみられる。

※ 1 : 農畜産業振興機構 ベジ探「野菜の需給・価格動向レポート 11 月 18 日版」トピック「はくさいの需給動向」参照。http://vegetan.alic.go.jp/topix/251118_topic.pdf

※ 2 : 農林水産政策研究所 小林茂典「加工・業務用野菜の需要動向」によると、平成 22 年時点ではくさいの加工・業務用需要に占める輸入割合は約 2%。以下の図は同資料を基に機構作成。

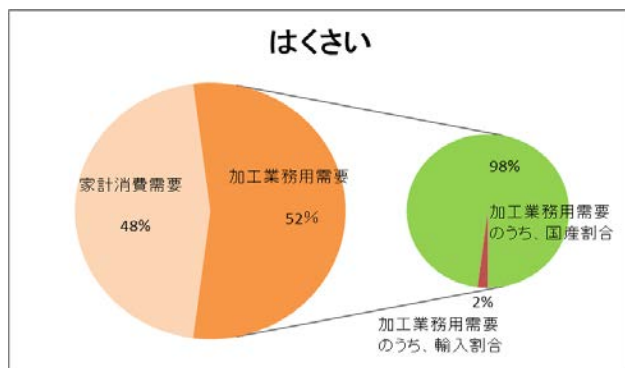


図 15 はくさいの仕入価格等の推移（平成 24 年 11 月～25 年 10 月）

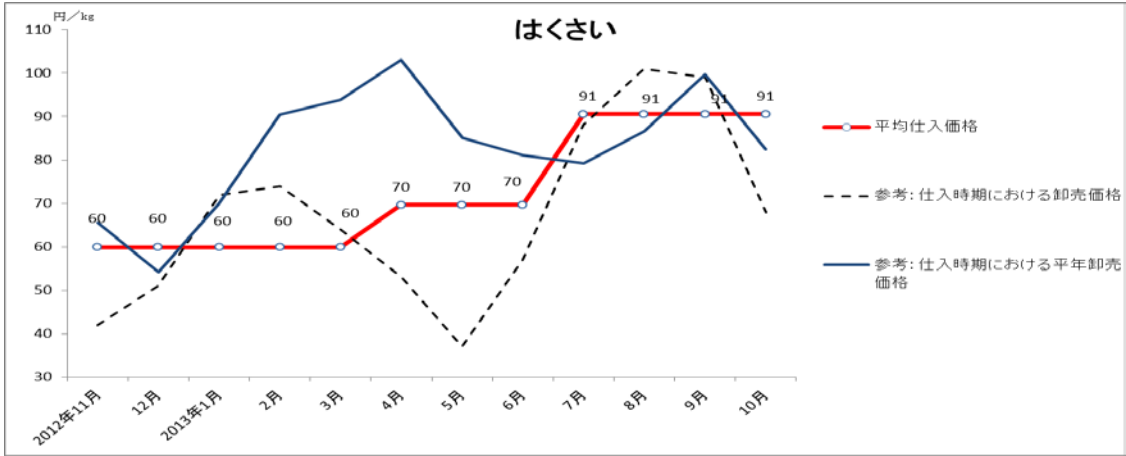


表 16-A はくさいの仕入価格概要

はくさい		
A	調査期間における平均仕入価格	73
B	調査期間における平均市場卸売価格	67
C	平年の市場卸売価格	82
D	AのCに対する乖離度合(A／C－1)×100(%)	-11%
E	参考: 輸入単価	48
F	参考: 生産費	40

※B、C、E、Fについては巻末の集計方法等を参照のこと。

表 16-B はくさいの項目別仕入価格 (n=28)

					(単位: %、円／kg)	
		構成比	時期別の国内仕入価格			年平均
			H24.11～ H25.3	H25.4～6	H25.7～10	(H24.11～ H25.10)
計		100.0	60	70	91	73
①業種	カット野菜製造業	7.1	57	68	107	77
	青果卸売業	21.4	58	61	80	66
	漬物製造業	67.9	60	71	92	74
	その他	3.6	82	86	96	88
②価格設定の考え方	生産費を参考	35.7	54	64	83	67
	製品価格から逆算	10.7	67	62	73	67
	卸売価格を参考	42.9	60	72	101	78
	その他	10.7	70	93	93	85
③価格設定方法	価格固定型	50.0	55	64	82	67
	市場連動型	17.9	73	87	122	94
	価格固定型＋市場連動型	32.1	60	68	89	72
	その他					
④価格設定期間	日単位	25.0	72	83	105	87
	月単位	17.9	61	71	91	74
	シーズン	53.6	54	63	86	67
	年間	3.6	60	60	70	63
	その他					
⑤販売先業種	外食事業者	14.3	69	70	84	75
	給食事業者					
	惣菜製造業者	3.6	50	60	100	70
	コンビニエンスストア					
	スーパーマーケット	50.0	59	68	87	71
	漬物製造業者	21.4	51	67	84	67

3 レタス

レタスの仕入価格の推移をみると、平成 24 年 11 月～25 年 3 月は 184 円/kg、25 年 4～6 月及び 7～10 月は 151 円/kg、年平均で 162 円/kg となっており、冬季の仕入価格が高い。

ここ数年、冬季の国内産加工・業務用レタスが不足するケースが多く、調査期間においては特にその傾向が顕著であったことから市場卸売価格が高騰し、これに伴い市場連動型の者の仕入価格が冬季の全体的な仕入価格を押し上げたとみられる。

図 16 をみると、レタスは露地栽培のため、生育が天候に左右されやすく、調査期間内の市場卸売価格の振れ幅は大きい、加工・業務用の仕入価格は概ね安定して推移している。

また、年平均仕入価格は、平年の市場卸売価格とほぼ同価格帯(表 17-A 参照)であり、市場卸売価格が低い水準で推移した時期も、一定価格が維持されている。

主にパック詰め、業務用サラダ、惣菜の付け合せ等として欠かせないレタスは、表 17-B の⑤によると、外食・スーパー・コンビニ・惣菜等、製造した製品の販売先の業種が多岐にわたり、川下の需要も安定的である(レタス全体の需要に対し、加工・業務用需要は 58%) ことに加え、日持ちせず輸入検疫時の燻蒸リスクが高いこと等から輸入が少ない※ことも、一定水準の仕入価格が形成される一因と推察される。

表 17-B について

- ① 仕入業種は、カット野菜製造業が 4 割強を占める。
- ② 価格設定の考え方別に仕入価格を比較すると、「製品価格から逆算」した者の価格が、他の者の価格より高めとなっている。
「市場卸売価格を参考」とした者の仕入価格と、実際の市場卸売価格にかなり乖離(特に高騰した冬季)がみられ、なおかつ後述する価格設定方法において市場連動型を選択している者が少ないことを踏まえると、調査期間内の市場卸売価格ではなく、平年の市場卸売価格等を参考とした価格設定が一定程度行われていると推察される。
- ③ 価格設定方法別にみると、今回の調査品目の中で最も価格固定型(シーズン単位が多い)を選択する者の割合が 7 割強と高い。これは、レタスの卸売価格の変動が、他の品目と比べてかなり大きいことも影響しているとみられる。

※：農林水産政策研究所 小林茂典「加工・業務用野菜の需要動向」によると、平成 22 年時点でレタスの加工・業務用需要に占める輸入割合は約 2%。以下の図は同資料を基に機構作成。

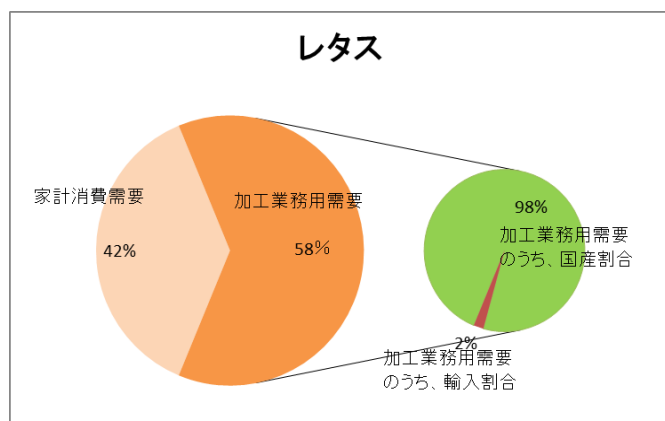


図 16 レタスの仕入価格等の推移（平成 24 年 11 月～25 年 10 月）

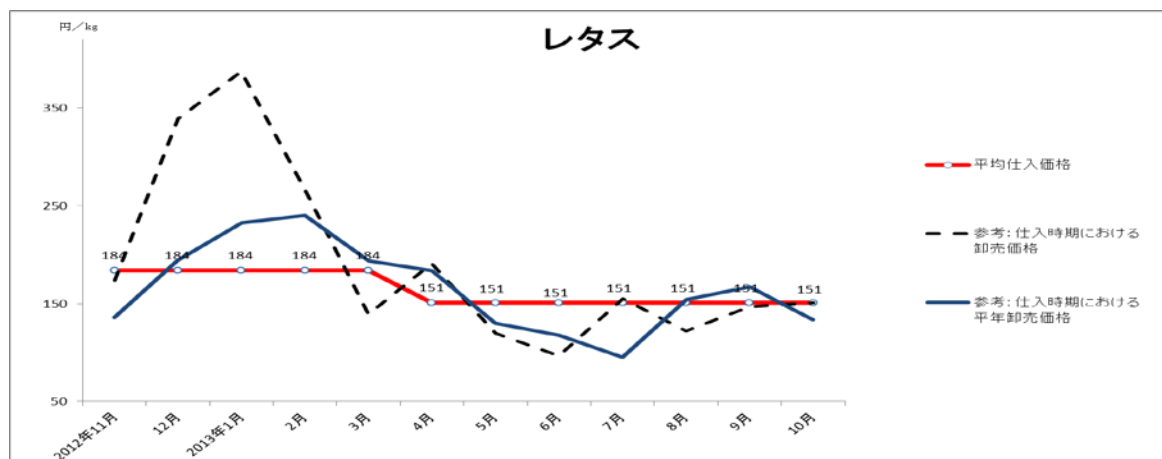


表 17-A レタスの仕入価格概要

単位・・・記載のないものは円/kg

レタス		
A	調査期間における平均仕入価格	162
B	調査期間における平均市場卸売価格	191
C	平年の市場卸売価格	164
D	AのCに対する乖離度合 $(A/C - 1) \times 100(\%)$	-1%
E	参考: 輸入単価	105
F	参考: 生産費	93

※B、C、E、Fについては巻末の集計方法等を参照のこと。

表 17-B レタスの項目別仕入価格 (n=26)

					(単位: %、円／kg)	
		構成比	時期別の国内仕入価格			年平均
			H24.11～ H25.3	H25.4～6	H25.7～10	(H24.11～ H25.10)
計		100.0	184	151	151	162
①業種	カット野菜製造業	46.2	180	150	146	159
	青果卸売業	34.6	189	144	147	160
	その他	19.2	184	165	170	173
②価格設定の考え方	生産費を参考	38.5	171	149	151	157
	製品価格から逆算	15.4	194	149	158	167
	卸売価格を参考	26.9	185	146	142	158
	その他	15.4	210	173	170	184
③価格設定方法	価格固定型	73.1	184	153	155	164
	市場連動型	3.8	260	109	138	169
	価格固定型＋市場連動型	23.1	173	151	143	155
	その他					
④価格設定期間	日単位	7.7	230	130	144	168
	月単位	3.8	220	200	200	207
	シーズン	80.8	181	153	152	162
	年間	7.7	150	125	125	133
	その他					
⑤販売先業種	外食事業者	38.5	172	142	141	152
	給食事業者	3.8	100	100	100	100
	惣菜製造業者	11.5	190	157	177	174
	コンビニエンスストア	7.7	160	150	150	153
	スーパーマーケット	26.9	211	156	147	171
	漬物製造業者					

4 たまねぎ

たまねぎの仕入価格の推移をみると、平成 24 年 11 月～25 年 3 月は 95 円/kg、25 年 4～6 月は 89 円/kg、25 年 7～10 月は 96 円/kg、年平均で 93 円/kg となっており、図 17 をみると調査期間内の市場卸売価格の振れ幅は大きいですが、加工・業務用の仕入価格は概ね安定して推移している。

また、年平均仕入価格は、平年の市場卸売価格を一貫して下回っているが、調査期間の年平均市場卸売価格を上回っている。

これは、調査期間内においては、中国産たまねぎが不作かつ円安により高かったことにより、調査期間における輸入量が直近 3 年(調査期間と同様 11 月～翌年 10 月の直近 3 年間)で最も少なく、一方で主産地の北海道産が堅調な入荷となっていた※¹ことから、国産に対する加工・業務用のニーズが高まったことも影響しているとみられる。

サラダ等生食向け、煮炊向け、冷凍食品向け等、様々な用途があり、通年需要がある加工・業務用たまねぎは、表 18-Bの⑤によると、外食・スーパー・給食等、製造した製品の販売先の業種が多岐にわたっており、川下の需要が安定的である(たまねぎ全体の需要に対し、加工・業務用需要は 59%) が、簡易処理済の中国産等の輸入量が多く、国内産と競合している※²。

表 18-B について

- ① 仕入業種は、4 割ほどをカット野菜製造業が占める。
- ② 価格設定の考え方別に仕入価格を比較すると、最も低く設定されているものは「生産費を参考」、次いで「製品価格から逆算」の考え方によるものである。一方、「市場卸売価格を参考」は、高めの価格設定となっている。
市場卸売価格を参考にした者の仕入価格(年平均=103 円/kg)は、平年の市場卸売価格相場(103 円/kg)と一致している。
- ③ 価格設定方法別に仕入価格を比較すると、「市場連動型」と比較して、シーズン、年間等の「価格固定型」の価格が低い水準にある。
- ④ 価格設定期間別に仕入価格を比較すると、最も該当数の多い「シーズン」契約の者の年間仕入価格が他の設定期間の者のものに比べて低い水準となっている。

※ 1 : 農畜産業振興機構 ベジ探「野菜の需給・価格動向レポート 11 月 5 日版」トピック「平成 25 年 1～9 月の輸入動向」
参照。 http://vegetan.alic.go.jp/topix/251105_topic.pdf

※ 2 : 農林水産政策研究所 小林茂典「加工・業務用野菜の需要動向」によると、平成 22 年時点でたまねぎの加工・業務用需要に占める輸入割合は約 52%。以下の図は同資料を基に機構作成。

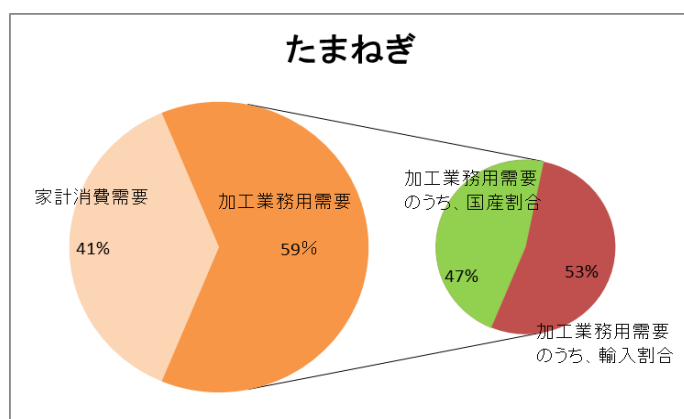


図 17 たまねぎの仕入価格等の推移（平成 24 年 11 月～25 年 10 月）

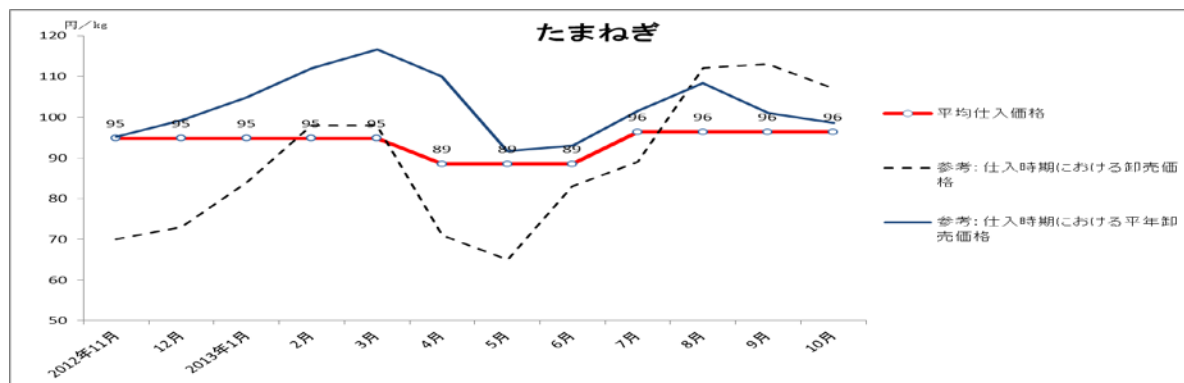


表 18-A たまねぎの仕入価格概要

単位・記載のないものは円/kg

たまねぎ		
A	調査期間における平均仕入価格	93
B	調査期間における平均市場卸売価格	89
C	平年の市場卸売価格	102
D	AのCに対する乖離度合 $(A/C - 1) \times 100(\%)$	-9%
E	参考: 輸入単価	39
F	参考: 生産費	40

※B、C、E、Fについては巻末の集計方法等を参照のこと。

表 18-B たまねぎの項目別仕入価格 (n=31)

		(単位: %、円／kg)				
		構成比	時期別の国内仕入価格			年平均
			H24.11～ H25.3	H25.4～6	H25.7～10	(H24.11～ H25.10)
計		100.0	95	89	96	93
①業種	カット野菜製造業	51.6	87	83	89	86
	青果卸売業	19.4	88	87	94	90
	冷凍食品製造業	12.9	126	109	98	111
	その他	16.1	107	88	126	107
②価格設定の考え方	生産費を参考	51.6	85	84	87	85
	製品価格から逆算	16.1	89	91	84	88
	卸売価格を参考	22.6	98	98	113	103
	その他	6.5	200	74	126	133
③価格設定方法	価格固定型	64.5	92	88	93	91
	市場連動型	9.7	133	95	131	120
	価格固定型＋市場連動型	25.8	86	88	92	88
	その他					
④価格設定期間	日単位	9.7	116	72	126	105
	月単位	9.7	135	143	112	130
	シーズン	67.7	84	82	88	85
	年間	12.9	110	104	104	106
⑤販売先業種	外食事業者	25.8	94	74	93	87
	給食事業者	3.2	120	130	95	115
	惣菜製造業者	12.9	70	75	70	72
	コンビニエンスストア					
	スーパーマーケット	25.8	117	112	117	115
	漬物製造業者					

5 きゅうり

きゅうりの仕入価格の推移をみると、平成 24 年 11 月～25 年 3 月は 369 円/kg、25 年 4～6 月は 265 円/kg、25 年 7～10 月は 275 円/kg 年平均で 303 円/kg となっており、冬季の仕入価格が突出して高いが、図 18 をみると、年間通して平年の市場卸売価格と連動して推移している。

なお、施設物と露地物では、燃料費等を含む生産費に 100 円/kg 程度の乖離があり、シーズンによる価格差は概ねそれと同程度である。

また、年平均仕入価格は、平年の市場卸売価格をわずかに上回る(表 19-A 参照)。

用途は漬物やサラダ等で、ある程度限定されるが、表 19-B の⑤によると、外食・スーパー・給食・惣菜等、製造した製品の販売先の業種が多岐にわたり、川下の需要が比較的ある。(きゅうり全体の需要に対し、加工・業務用需要は 46%)

加えて加工・業務用需要に占める輸入の割合が低い※こと、施設物の場合は露地物と比較して生育が天候に左右されにくく、安定した出荷が可能であることも、一定水準の仕入価格が形成される一因と推察される。

表 19-B について

- ① 仕入業種は、漬物製造業者が 7 割以上を占める。
- ② 価格設定の考え方別に仕入価格を比較すると、最も低く設定されているのは「生産費を参考」、次いで「製品価格から逆算」の考え方によるものである。一方、「市場卸売価格を参考」とするものは、20 円/kg 程度高めとなっている。これは、市場連動型の価格設定をする者が多いなかで、調査期間内のきゅうりの市場卸売価格が、平年と比較してやや高い水準で推移していたことも影響しているとみられる。
- ③ 価格設定方法別に仕入価格を比較すると、「市場連動型」の価格は、シーズン、年間等の「価格固定型」の仕入価格と比べて、上述の理由から高くなっている。
- ④ 価格設定期間別の仕入価格を比較すると、短いスパン(特に日単位)で価格契約を行う市場連動型の者の仕入価格が高くなっている。

※：農林水産政策研究所 小林茂典「加工・業務用野菜の需要動向」によると、平成 22 年時点できゅうりの加工・業務用需要に占める輸入割合は約 13%。以下の図は同資料を基に機構作成。

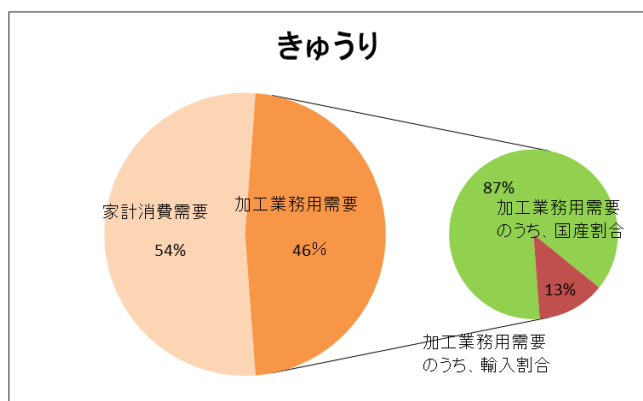


図 18 きゅうりの仕入価格等の推移（平成 24 年 11 月～25 年 10 月）

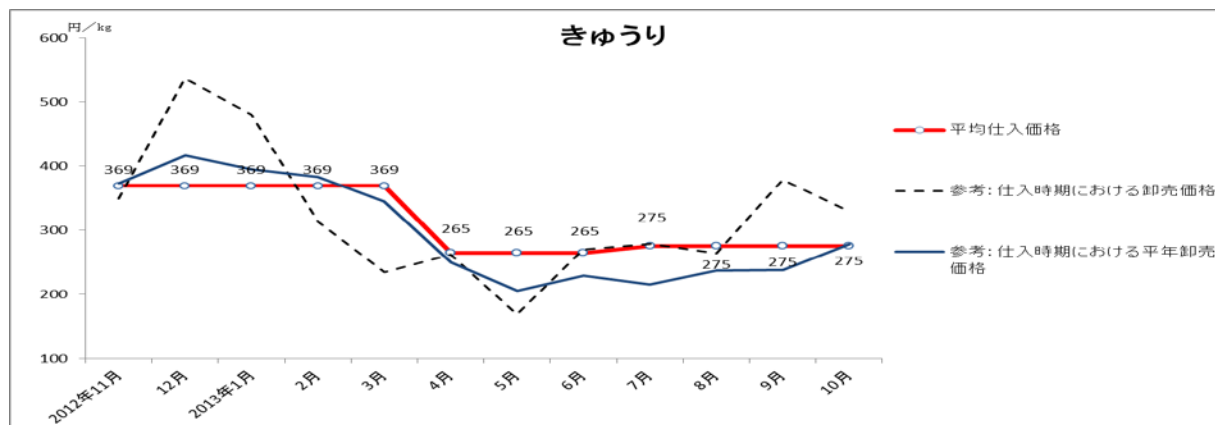


表 19-A きゅうりの仕入価格概要

単位: 記載のないものは円/kg

きゅうり		
A	調査期間における平均仕入価格	303
B	調査期間における平均市場卸売価格	322
C	平年の市場卸売価格	297
D	AのCに対する乖離度合 $(A/C - 1) \times 100(\%)$	2%
E	参考: 輸入単価	273
F	参考: 生産費	露地 117 施設 217

※B、C、E、Fについては巻末の集計方法等を参照のこと。

表 19-B きゅうりの項目別仕入価格 (n=30)

						(単位: %、円／kg)
		構成比	時期別の国内仕入価格			年平均
			H24.11～ H25.3	H25.4～6	H25.7～10	(H24.11～ H25.10)
計		100.0	369	265	275	303
①業種	青果卸売業	23.3	361	257	259	292
	漬物製造業	70.0	364	278	306	316
	その他	6.7	500	157	88	248
②価格設定の考え方	生産費を参考	16.7	267	220	183	223
	製品価格から逆算	10.0	340	213	240	264
	卸売価格を参考	60.0	396	278	280	318
	その他	10.0	297	250	289	279
③価格設定方法	価格固定型	40.0	275	236	230	247
	市場連動型	40.0	427	295	333	352
	価格固定型＋市場連動型	20.0	413	255	230	299
	その他					
④価格設定期間	日単位	40.0	425	279	281	328
	月単位	10.0	290	270	360	307
	シーズン	36.7	309	237	210	252
	年間	10.0	325	250	250	275
	その他					
⑤販売先業種	外食事業者	6.7	500	400	300	400
	給食事業者					
	惣菜製造業者	10.0	315	240	198	251
	コンビニエンスストア	3.3	280	200	170	217
	スーパーマーケット	46.7	343	275	303	307
	漬物製造業者	10.0	386	94	157	212

6 なす

なすの仕入価格の推移をみると、平成 24 年 11 月～25 年 3 月は 358 円/kg、25 年 4～6 月は 329 円/kg、25 年 7～10 月は 260 円/kg、年平均で 316 円/kg となっており、冬季の仕入価格が高いが、図 19 をみると、概ね平年の市場卸売価格と連動して推移している。

また、年平均仕入価格は、平年の市場卸売価格(342 円/kg)を 8%程度下回っている(表 20-A 参照)。

加工・業務用なすは、ほとんどが漬物用途であり、表 20-Bの⑤によると製造した製品の販売先も限定的である(なす全体の需要に対し、加工・業務用需要は 43%であり、調査品目中最も低い※)。

しかし、外国産との競合が少ない※ことや、施設物の場合は露地物と比較して生育が天候に左右されにくく、安定した出荷が可能であることも、一定水準の仕入価格が形成される一因と推察される。

表 20-B について

- ① 仕入業種は、漬物製造業者が 8 割以上を占める。
- ② 価格設定の考え方別に仕入価格を比較すると、最も低く設定されているものは「製品価格から逆算」次いで「市場卸売価格を参考」となっており、「生産費を参考」、は、他の多くの品目と異なり、高めに設定されている。なすの生産費は露地物と施設物でかなり違いがあり、特に施設物の生産費が相当程度高いことが影響しているとみられる。
- ③ 価格設定方法別に仕入価格を比較すると、シーズン、年間等の「価格固定型」の仕入価格が他の価格設定方法と比較して高めとなっている。
- ④ 価格設定期間別に仕入価格を比較すると、短いスパン(特に日単位)で価格契約を行う市場連動型の者の仕入価格がやや低めとなっている。

※：農林水産政策研究所 小林茂典「加工・業務用野菜の需要動向」によると、平成 22 年時点でなすの加工業務用需要に占める輸入割合は約 4%。以下の図は同資料を基に機構作成。

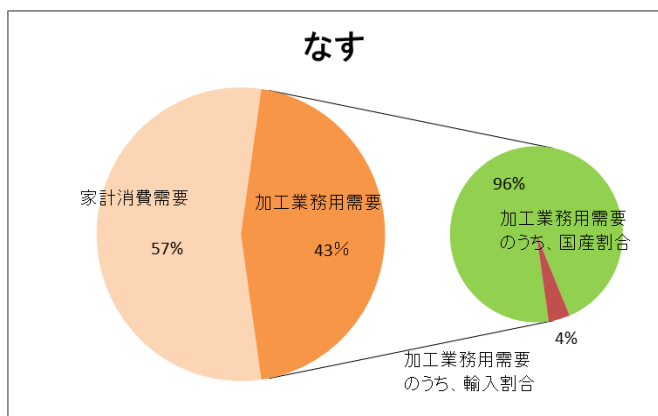


図 19 なすの仕入価格等の推移（平成 24 年 11 月～25 年 10 月）

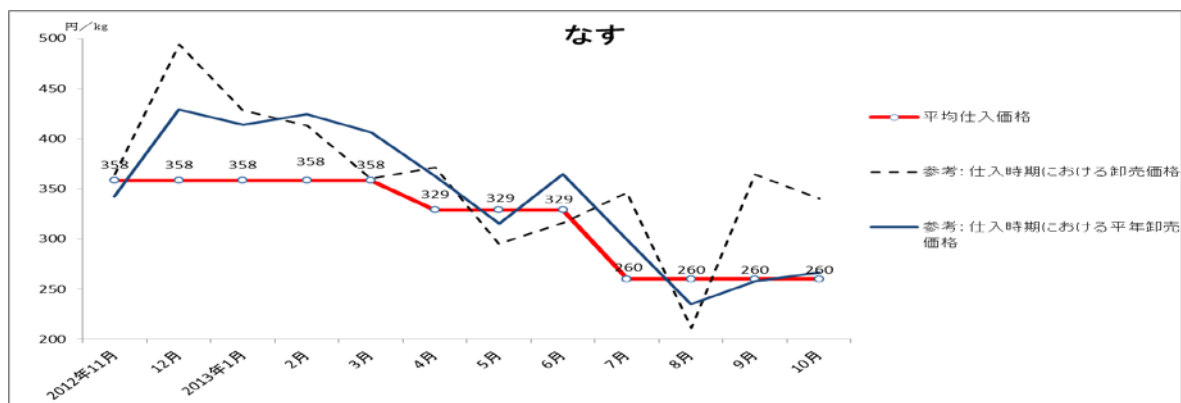


表 20-A なすの仕入価格概要

なす		
A	調査期間における平均仕入価格	316
B	調査期間における平均市場卸売価格	359
C	平年の市場卸売価格	342
D	AのCに対する乖離度合 $(A/C - 1) \times 100(\%)$	-8%
E	参考: 輸入単価	245
F	参考: 生産費	露地 168 施設 529

※B、C、E、Fについては巻末の集計方法等を参照のこと。

表 20-B なすの項目別仕入価格 (n=15)

		(単位：％、円／kg)				
		構成比	時期別の国内仕入価格			年平均
			H24.11～ H25.3	H25.4～6	H25.7～10	(H24.11～ H25.10)
計		100.0	358	329	260	316
①業種	漬物製造業	86.7	371	334	250	319
	その他	13.3	280	280	315	292
②価格設定の考え方	生産費を参考	33.3	425	327	283	345
	製品価格から逆算	20.0	290	440	203	311
	卸売価格を参考	33.3	340	333	313	329
	その他	6.7	398	330	295	341
③価格設定方法	価格固定型	66.7	407	335	254	332
	市場連動型	20.0	200	300	248	249
	価格固定型＋市場連動型	13.3	340	340	300	327
	その他					
④価格設定期間	日単位	13.3	400	250	207	286
	月単位	13.3	380	380	250	337
	シーズン	60.0	382	318	259	320
	年間	6.7	200	500	300	333
	その他	6.7			350	350
⑤販売先業種	外食事業者	6.7	398	330	295	341
	給食事業者					
	惣菜製造業者					
	コンビニエンスストア					
	スーパーマーケット	53.3	342	332	239	304
	漬物製造業者					

7 だいこん

だいこんの仕入価格の推移をみると、平成 24 年 11 月～25 年 3 月は 66 円/kg、25 年 4～6 月は 73 円/kg、25 年 7～10 月は 89 円/kg、年平均で 76 円/kg となっており、図 20 をみると、7～10 月期の仕入価格が高い水準となっている。

年平均仕入価格は、平年の市場卸売価格を 8%程度下回る(表 21-A 参照)が、市場卸売価格が低めで推移している月も一定水準の仕入価格が形成されている。

加工・業務用だいこんは、漬物用途が多いが、おでんやだいこんサラダ、刺身のツマ、だいこんおろし等の需要があり、表 21-B の⑤をみると、製造した製品の販売先は外食、スーパー、コンビニ等分散しており、川下の需要が安定してあること(特に外食等業務用途の仕入価格が高く、また、だいこん全体の需要に対し、加工・業務用需要は 60%と他の多くの品目に比べて高い。*) ことに加え、外国産との競合が少ない品目※であることが、一定水準の仕入価格の形成につながっている一因と推察される。

表 21-B について

- ① 仕入業種は、漬物製造業者が 6 割程度を占め、2 割弱をカット野菜製造業者が占める。
- ② 価格設定の考え方別に仕入価格を比較すると、「製品価格から逆算」、「生産費を参考」に比べ、「市場卸売価格を参考」とした者の仕入価格がやや高い水準となっている。
- ③ 価格設定方法別に仕入価格を比較すると、「価格固定型」及び「価格固定型＋市場連動型」の価格に比べ、「市場連動型」は、調査期間内の市場卸売価格に近い価格水準となっている。
- ④ 価格設定期間別に仕入価格を比較すると、短いスパン(特に日単位)で価格契約を行う市場連動型の者の仕入価格が高い。

※：農林水産政策研究所 小林茂典「加工・業務用野菜の需要動向」によると、平成 22 年時点でだいこんの加工・業務用需要に占める輸入割合は約 6%。以下の図は同資料を基に機構作成。

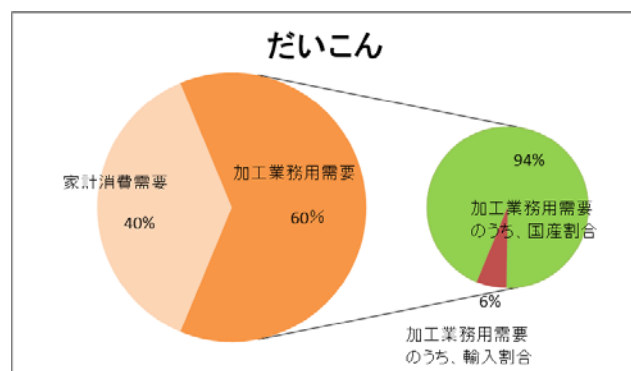


図 20 だいこんの仕入価格等の推移（平成 24 年 11 月～25 年 10 月）

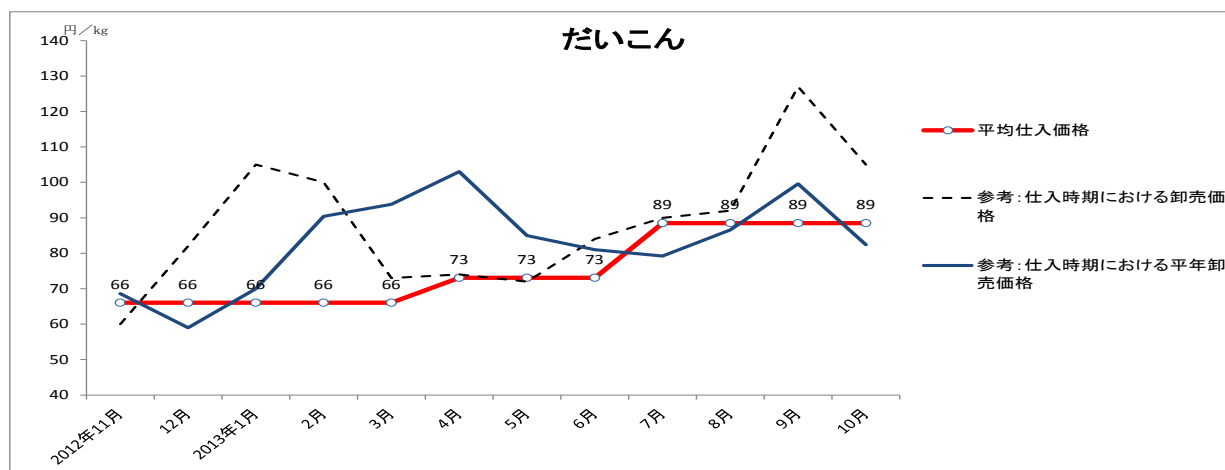


表 21-A だいこんの仕入価格概要

単位：記載のないものは円/kg

だいこん		
A	調査期間における平均仕入価格	76
B	調査期間における平均市場卸売価格	89
C	平年の市場卸売価格	83
D	AのCに対する乖離度合 $(A/C-1) \times 100(\%)$	-8%
E	参考：輸入単価	165
F	参考：生産費	40

※B、C、E、Fについては巻末の集計方法等を参照のこと。

表 21-B だいこんの項目別仕入価格 (n=45)

						(単位：％、円／kg)
		構成比	時期別の国内仕入価格			年平均
			H24.11～ H25.3	H25.4～6	H25.7～10	(H24.11～ H25.10)
計		100.0	66	73	89	76
①業種	カット野菜製造業	15.6	68	66	67	67
	青果卸売業	13.3	82	88	99	89
	漬物製造業	64.4	62	71	94	76
	その他	6.7	70	70	75	72
②価格設定の考え方	生産費を参考	35.6	59	65	95	73
	製品価格から逆算	26.7	63	71	70	68
	卸売価格を参考	26.7	71	80	89	80
	その他	6.7	66	85	90	80
③価格設定方法	価格固定型	62.2	61	66	75	67
	市場連動型	15.6	80	83	104	89
	価格固定型＋市場連動型	22.2	66	75	99	80
	その他					
④価格設定期間	日単位	11.1	80	100	104	95
	月単位	13.3	81	74	77	77
	シーズン	62.2	61	69	87	72
	年間	11.1	59	65	65	63
	その他					
⑤販売先業種	外食事業者	22.2	79	81	91	83
	給食事業者	2.2	55	60	150	88
	惣菜製造業者	2.2	50	60	100	70
	コンビニエンスストア	8.9	53	68	89	70
	スーパーマーケット	44.4	63	71	80	71
	漬物製造業者	2.2	30	35	30	32

8 にんじん

にんじんの仕入価格の推移をみると、平成 24 年 11 月～25 年 3 月は 80 円/kg、25 年 4～6 月は 86 円/kg、25 年 7～10 月は 91 円/kg、年平均で 86 円/kg となっており、年平均仕入価格は、平年の市場卸売価格を 36%と大幅に下回っている(表 15-A 参照)。

国内産の主産地の切り替わり時期にあたる春先に不足するケースが多いことから、3～4 月の市場卸売価格が高くなる傾向があるが、図 21 をみると、加工・業務用における仕入価格はそれほど高くなっておらず、その他の期間においても、仕入価格は平年の市場卸売価格を一貫して下回って推移している。

加工・業務用にんじんは、煮炊きやスティックサラダ、野菜ジュース等の通年需要があり、表 22-B の⑤をみると、製造した製品の販売先も外食、給食、惣菜製造業と多岐にわたる(にんじん全体の需要に対し、加工・業務用需要は 64%と、調査品目中最も高い)が、加工・業務用需要の 1/2 を外国産が占め※、国内産不足時も含めて輸入が恒常的に行われていることが、仕入価格が低めに設定される一因と推察される。

表 22-B について

- ① 仕入業種は、カット野菜製造業者が 4 割弱を占める。
- ② 価格設定の考え方別に仕入価格を比較すると、最も低く設定されているものは、他の多くの品目と同様「生産費を参考」、次いで「製品価格から逆算」である。一方、「市場卸売価格を参考」にした者の仕入価格は、他の者と比較して高めとなっている。
- ③ 価格設定方法別に仕入価格を比較すると、「価格固定型」に比べて、市場連動要素が含まれる者の仕入価格が高めとなっている。
- ④ 価格設定期間別に仕入価格を比較すると、「シーズン」契約の者の価格が特に低い。

※：農林水産政策研究所 小林茂典「加工・業務用野菜の需要動向」によると、平成 22 年時点のにんじんの加工・業務用需要に占める輸入割合は約 51%。以下の図は同資料を基に機構作成。

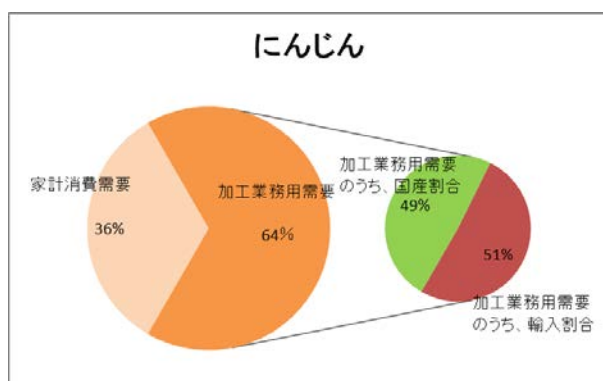


図 21 にんじんの仕入価格等の推移（平成 24 年 11 月～25 年 10 月）

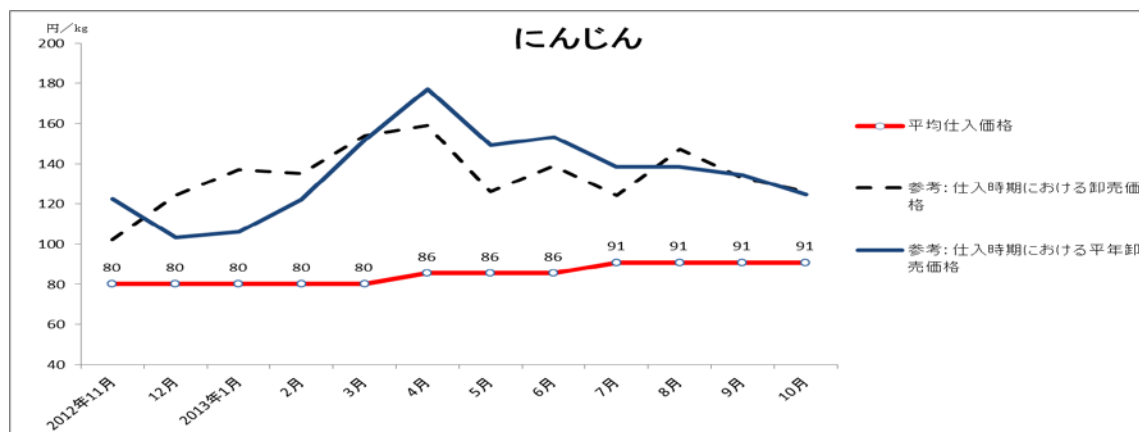


表 22-A にんじんの仕入価格概要

単位・・・記載のないものは円/kg

にんじん		
A	調査期間における平均仕入価格	86
B	調査期間における平均市場卸売価格	134
C	平年の市場卸売価格	135
D	AのCに対する乖離度合 $(A/C - 1) \times 100(\%)$	-36%
E	参考: 輸入単価	47
F	参考: 生産費	58

※B、C、E、Fについては巻末の集計方法等を参照のこと。

表 22-B にんじんの項目別仕入価格 (n=15)

				(単位: %、円／kg)		
		構成比	時期別の国内仕入価格			年平均
			H24.11～ H25.3	H25.4～6	H25.7～10	(H24.11～ H25.10)
計		100.0	80	86	91	86
①業種	カット野菜製造業	40.0	65	71	71	69
	青果卸売業	20.0	73	71	85	76
	その他	40.0	97	109	118	108
②価格設定の考え方	生産費を参考	40.0	58	65	68	64
	製品価格から逆算	20.0	82	90	83	85
	卸売価格を参考	33.3	98	105	111	105
	その他					
③価格設定方法	価格固定型	40.0	65	71	81	72
	市場連動型	6.7	120	120	120	120
	価格固定型＋市場連動型	53.3	88	94	95	92
	その他					
④価格設定期間	日単位					
	月単位	40.0	107	113	117	112
	シーズン	40.0	60	63	66	63
	年間	13.3	95	88	100	94
	その他					
⑤販売先業種	外食事業者	33.3	70	74	89	78
	給食事業者	6.7	120	120	120	120
	惣菜製造業者	20.0	60	63	60	61
	コンビニエンスストア	6.7	80	80	80	80
	スーパーマーケット					
	漬物製造業者					

V. 加工・業務用野菜に係る課題等

1 仕入に係る問題点・課題

国産加工・業務用野菜の仕入についての実需者等からみた供給上の問題点や課題については、「定時定量供給」が31.6%で最も多くなっており、次いで「価格変動」が29.9%、「価格の高さ」が22.6%、「ロットの確保」が14.7%となっている。

業種別にみると、惣菜製造業では「ロットの確保」及び「価格の高さ」が、また、冷凍食品製造業では「定時定量供給」が、さらには青果卸売業では「価格変動」が、それぞれ他の業種に比べ割合が高かった。

図 22 国産加工・業務用野菜の仕入に関する問題点・課題

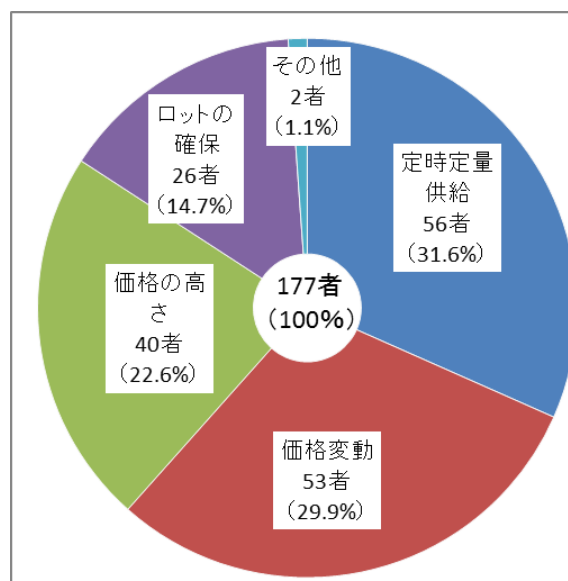


表 23 国産加工・業務用野菜の仕入に関する問題点・課題

	回答数	計	定時定量供給	価格変動	価格の高さ	ロットの確保	その他
	者	%	%	%	%	%	%
計	177	100.0	31.6	29.9	22.6	14.7	1.1
漬物製造業	58	100.0	29.3	24.1	32.8	12.1	1.7
カット野菜製造業	32	100.0	31.3	31.3	9.4	28.1	0.0
惣菜製造業	9	100.0	11.1	22.2	33.3	33.3	0.0
冷凍食品製造業	9	100.0	66.7	11.1	22.2	0.0	0.0
青果卸売業	39	100.0	20.5	46.2	23.1	10.3	0.0
食品卸売業	8	100.0	50.0	37.5	0.0	12.5	0.0
その他	22	100.0	45.5	22.7	18.2	9.1	4.5

2 品質規格・管理上の問題点・課題

国産加工・業務用野菜の仕入についての品質規格・管理上の問題点や課題については、「規格・サイズ」が40.9%で最も多くなっており、次いで「加工歩留まり」が22.0%でこの2つで全体の半数以上を占める。

業種別にみると、漬物製造業では「規格・サイズ」が、カット野菜製造業では「加工歩留まり」が、惣菜製造業では「トレーサビリティ」が、冷凍食品製造業では「品質・衛生管理」及び「加工適性」が、それぞれ他の業種に比べ割合が高かった。

図 23 国産加工・業務用野菜の仕入に係る品質規格・管理上の問題点・課題

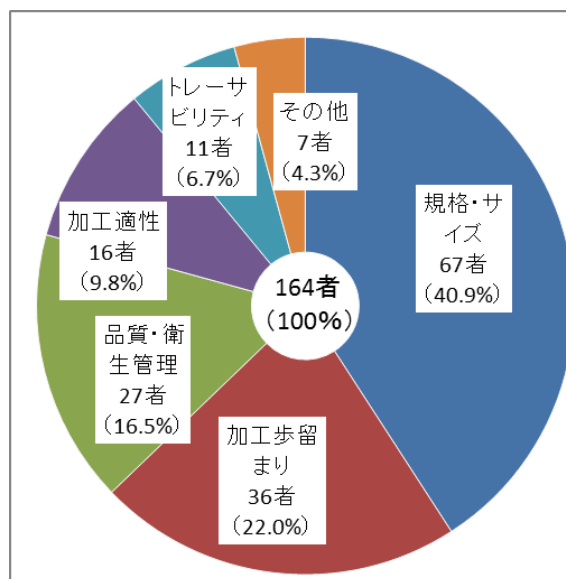


表 23 国産加工・業務用野菜の仕入に係る品質規格・管理上の問題点・課題

	回答数	計	規格・サイズ	加工歩留まり	品質・衛生管理	加工適性	トレーサビリティ	その他
	者	%	%	%	%	%	%	%
計	164	100.0	40.9	22.0	16.5	9.8	6.7	4.3
漬物製造業	54	100.0	53.7	11.1	14.8	11.1	5.6	3.7
カット野菜製造業	31	100.0	12.9	51.6	6.5	16.1	6.5	6.5
惣菜製造業	8	100.0	12.5	25.0	25.0	12.5	25.0	0.0
冷凍食品製造業	8	100.0	25.0	0.0	37.5	25.0	12.5	0.0
青果卸売業	35	100.0	48.6	17.1	17.1	5.7	2.9	8.6
食品卸売業	8	100.0	37.5	37.5	12.5	0.0	12.5	0.0
その他	20	100.0	55.0	15.0	25.0	0.0	5.0	0.0

＊報告書中に使用した仕入価格等の集計方法について＊

- 報告書中に使用した仕入価格の平均値等については、異常値除去の観点から、品目ごとに最も高い価格と最も低い価格を回答した調査対象者のデータを除去して算出している。
- 報告書中に使用した仕入価格の平均値等については、卸売市場における予約相対取引等に係る手数料等が含まれる価格を回答した調査対象者のデータを除去して算出している。
- 報告書中に使用した仕入価格について、運賃を含む価格を回答した調査対象者のデータを除去して算出している。
- 報告書中の品目別仕入価格分析については、上述のデータ除去ののち、15 件以上のサンプルがある品目のみ行っている。
- レタスについては結球の価格を採用している。
- 品目ごとの調査期間内の平均市場卸売価格は、東京都中央市場（築地、大田、豊島、淀橋、葛西、北足立、板橋、世田谷、多摩ニュータウンの計 9 市場）における平均価格を農畜産業振興機構(以下、「機構」という。)野菜情報総合把握システム「ベジ探」より掲載。原資料：東京都「市場月報」
- 品目ごとの平年の市場卸売価格は、平成 19～23 年における、調査期間と同時期(11 月～翌 10 月)の加重平均で機構が算出。原資料：東京都「市場月報」
- 品目ごとの輸入単価については、直近 5 か年（平成 20～24 年）の生鮮の輸入単価のうち、5 中 3 平均により機構が算出。単価は、CIF(保険料・運賃込み価格)。なお、きゅうりは「きゅうり及びガーキン」だいこんは「その他根菜類」の単価を使用している。原資料：財務省「貿易統計」
- 品目ごとの生産費については、農林水産省「作況調査」及び「品目別経営統計調査」を基に機構が算出(原資料：農林水産省「品目別経営統計」は、平成 19 年産が最終調査であることから、その値を使用)。

※平成 24 年時点では、最近の燃油高騰等により、平成 19 年に比べて資材費が 10%程度上昇しているが、算出した生産費にはこれを加味していない。

※平成 19 年は燃油高騰年のため、特に果菜類については、それまでの間の平年に比べて生産費が高めになっているとみられる。

各品目の生産費 計算
資料：農林水産省 平成 19 年産品目別経営統計

農業経営費 (全国平均)	(年 産)		(春)		(夏 秋)		(冬)	
	1 戸 当 たり	10a 当 たり	1 戸 当 たり	10a 当 たり	1 戸 当 たり	10a 当 たり	1 戸 当 たり	10a 当 たり
レタス	2592	242	1070	221	4822	221	3311	270
キャベツ	2076	210	1413	185	4314	236	1779	204
きゅうり	—	—	—	—	878	588	—	—
トマト	—	—	—	—	1170	637	—	—
なす	—	—	—	—	910	577	—	—
きゅうり施設	2375	1086	3701	1557	1043	505	—	—
トマト施設	4787	1369	7095	1753	2941	959	—	—
なす施設	—	—	5219	1820	—	—	—	—
にんじん	1978	202	3326	298	4266	175	1094	168
はくさい	2019	197	1661	235	3013	258	1900	179
だいこん	1542	175	1170	175	2557	202	1435	168
たまねぎ	1564	211	—	—	—	—	—	—
ばれいしょ	3555	86	—	—	—	—	—	—
かんしょ	1363	110	—	—	—	—	—	—

赤字=今回生産費算出に当たり使用した数値
各品目の 10aあたりの収量を計算し、kgあたりの生産費を算出する。

kgあたり生産費算出		生産費	
2007 年産	収穫量 (kg/10a)	経営費 (千円/10a)	経営費 (円/kg)
だいこん	4,370	175	40
にんじん	3,490	202	58
レタス	2,600	242	93
はくさい	4,910	197	40
キャベツ	4,160	210	50
きゅうり(露地)	5,010	588	117
きゅうり(施設)	5,010	1086	217
トマト(露地)加工専用	6,730	637	95
トマト(施設)加工専用	6,730	1369	203
トマト(露地)	5,900	637	108
トマト(施設)	5,900	1369	232
なす(露地)	3,440	577	168
なす(施設)	3,440	1820	529
たまねぎ	5,210	211	40
ばれいしょ	3,290	86	26
かんしょ	2,380	110	46

※収穫量は、露地、施設共通数値を使用

収穫量、作付け面積のデータ 原資料：農林水産省「作物統計調査」